自大正二年
至大正十五年

内閣通牒

国立公文書館
分類 自治省 (48)
排架番号 3 A 13-9 289

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

50

内務大臣官房人事課

2

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

(50)

目次

年月日	件名	備考
一、二、九、一七	初任高等官並同待遇履歴書様式ノ件	
二、二、八、四	天長節祝日御治定ニ関スル件	
三、二、九、一九	恩赦令及大正元年勅令第三十号解釋ニ関スル件	
四、三、四、一六	定例閣議日ノ件	
五、三、六、二	伊国制度視察及調査ノ為ノ渡伯者取扱ニ関スル件	
六、三、七、六	暑中定例閣議日ノ件	
七、三、一〇、二	叙勲内則及同取扱手續改正ノ件	
八、三、一二、三四	勲記取扱ニ関スル件	
九、四、四、二七	叙勲上奏名簿ニ副手添付ノ件	
一〇、四、六、二九	勲章褒章記章受取ニ属官並差出方ノ件	
一一、四、七、二	参政官、副参政官ノ出張旅行ニ関スル件	
一二、四、八、九	文武官叙位進階内則改正ノ件	

国立公文書館
National Archives of Japan

一三、四、九、一〇　定例閣議日ノ件
一四、四、二、二三　官吏ガ衆議員議員タルヲ許サヌル件
一五、四、一、一四　特殊会社ノ役員ハ衆議院議員ヲ兼ネルコトヲ得サル件
一六、四、五、二五　勲章授與式例
一七、四、八、二六　樺太特定郵便局長叙位ニ関スル件
一八、六、三、二　帝国大学教授ハ衆議院議員タルコトヲ許可シ得ヘキ件
一九、六、四、一八　叙勲申立書添付履歴書ニ関スル件
二〇、七、四、一八　各種委員異動報告ノ件
二一、六、六、六　李王殿下御東上送迎方ニ関スル件
二二、六、五、二六　官紀粛正ニ関スル閣議申合ノ件
二三、六、八、二五　拓殖局設置ニ付取扱方ニ関スル件
二四、七、五、二九　特別任用北海道支庁長等ノ陸軍年限ニ関スル件
二五、七、六、四　軍需局職員ニ対スル訓示

二六、七、六、六　地方長官會同総理大臣訓示ノ件
二七、七、七、三　殖民地官庁ニ支渉ヲ要スル場合ノ文書経由ニ関スル件
二八、七、一〇、二四　勲章賠償佩用方ニ関スル件
二九、七、一〇、二六　刑事事件ニ関シ休職ヲ命ゼラレタル者ノ免官ニ関スル件
三〇、八、三、一　叙勲内則等ノ改正ノ件
三一、八、一、九　皇室警護恩給退隠料停止ニ関スル件
三二、八、五、二〇　叙勲内則改正ノ件
三三、八、七、二二　官庁職員ノ服装ニ関スル件
三四、八、七、一八　定例叙勲内申期日ニ関スル件
三五、八、七、三一　官吏ノ海外出張ニ関スル件
三六、九、一、二六　高等試験委員ノ銓衡ヲ経ル書類取扱方
三七、七、三、二　議院ニ於ケル政府委員決定ノ件
三八、八、二五　高等官賞與施行方ノ件
三九、一〇、七、五　勲章授與式例中改正

四〇、一二、一、六　勲功記ノ文付ニ関スル件
四一、一三、八、一　官制ニ依ラサル要員等設置ノ場合
四二、一三、九、一二　叙位内則中改令期間ニ特例ヲ設クル件　震災関係
四三、一二、一〇、一一　機密漏洩防止ニ関スル件
四四、一三、一〇、一二　任官等発令日付ニ関スル件
四五、一三、一二、一四　退官退職又ハ休職ヲ命セラレタル文官恩等ノ再就職ノ場合ニ於ケル制限ニ関スル件　震災ニ因ル死亡者等ニ関シ
四六、一三、一、二三　恩赦ニ関スル件
四七、一三、二、二七　高等官官等陞叙年限算定内規中改正
四八、一三、三、六　危篤叙勲発令日附ニ関スル件
四九、一三、四、三〇　大正十年勅令第二百三十三号第一条中在職年数通算ニ関スル件
五〇、一三、四、二九　叙位叙勲ノ内申ニ関スル件
五一、昭二、二、二八　叙勲者ニ対スル勲記送達方ニ関スル件
五二、大一三、五、一三　各種要員会ノ要員等ノ命免ニ関スル取扱方
五三、一三、五、三〇　叙勲内則中改正ノ件

五四、一三、六、一〇　各廳ニ於ケル事務ノ簡捷及能率ノ増進ノ達成ニ関スル件
五五、一三、七、一　大正十年閣令第六號中改正　官廳ノ執務時間等
五六、一三、七、二二　故従一位大勲位公爵松方正義葬儀ノ件
五七、一三、八、五　官紀振粛ニ関スル内閣総理大臣訓諭
五八、一三、八、二二　内閣総理大臣ヨリ部内ノ部局長ニ対スル訓諭
五九、一三、一〇、一〇　職員録発行期日ノ件
六〇、一三、一一、四　北海道召集免除ノ件
六一、一三、一二、六　官紀ノ振粛ニ関スル内閣総理大臣通牒　機密漏洩防止
六二、一四、一、三一　明治二十三年一月四日閣議決定省令審査要員設置ノ件ヲ廃スルノ件
六三、一四、五、七　高等官官等陞叙年限算定内規中改正
六四、一四、四、二五　靖国神社臨時大祭参列ノ件
六五、一四、七、一八　官報辞令欄又ハ官廳事項欄ニ登載ノ件
六六、一五、四、八　内閣宛送付スベキ文書ノ取扱方
六七、一五、四、二〇　国家総動員機関設置準備要員会

目次

六八、一四、二、九　設置ニ関スル件
位階令並位階令施行細則ノ施行ニ関スル件

（目次作成　昭和四八、七）

大正二年九月十七日

内閣

秘

[illegible]第七七二號 西園寺侯爵ヨリ

別紙内閣書記官長ヨリ朝鮮総督宛

[illegible]

一八五

秘

朝鮮総督府官制改正ノ件

[illegible]

又

初メテ高等官及同待遇ニ任セラルヽ
者ノ提出シタル履歴書ノ内閣ニ
於テ保管セラルヽ分ハ一通ノ用紙
様式共必ス別紙見本ノ通貴庭
ニ於テ便宜調製シ提出方取計
此段及照会ス也

追テ如文履歴書ニハ資格ヲ偽ル、
キ学歴、任官、俸給、
位勲、外国勲章用ノ事項ハミヲ
記入方成ル可
用紙ニ内閣ノ文字又ハ庭名記入ヲ要セス

内務省

警視庁
北海道庁
樺太庁
府県
市町村

大正二年八月十一日

山之内内閣書記官長

北海道庁官吏恩給令改正

照會

内閣ニ於テ保管スル高等官並同待遇ノ履歴ハ轉任陞等敘位敘勲等ノ調査ノ基礎トナルヘキモノナルヲ以テ一定ノ用紙ニ記入シ置クノ必要アリ然ルニ従来各廳ヨリ内閣ニ提出セラルル履歴書ハ用紙様式共ニ區々ニ亘ルヲ以テ内閣ニ於テ更ニ浄書ノ上編纂スルヲ要シ為ニ事務ノ進行自ラ遲延スルヲ免レス依テ自今重複ノ手續ヲ省キ事務ノ進捗ヲ圖ル為各廳ヨリ内閣ニ履歴書ヲ提出スル場合ニハ初任ノ際ニ限リ必ス内閣ノ用紙ニ記入相成様致度

追テ用紙ハ必要ニ應シ内閣ハ請求相成度

大正二年九月四日

内閣書記官

秘書官

内務大臣秘書官ヲ

通牒

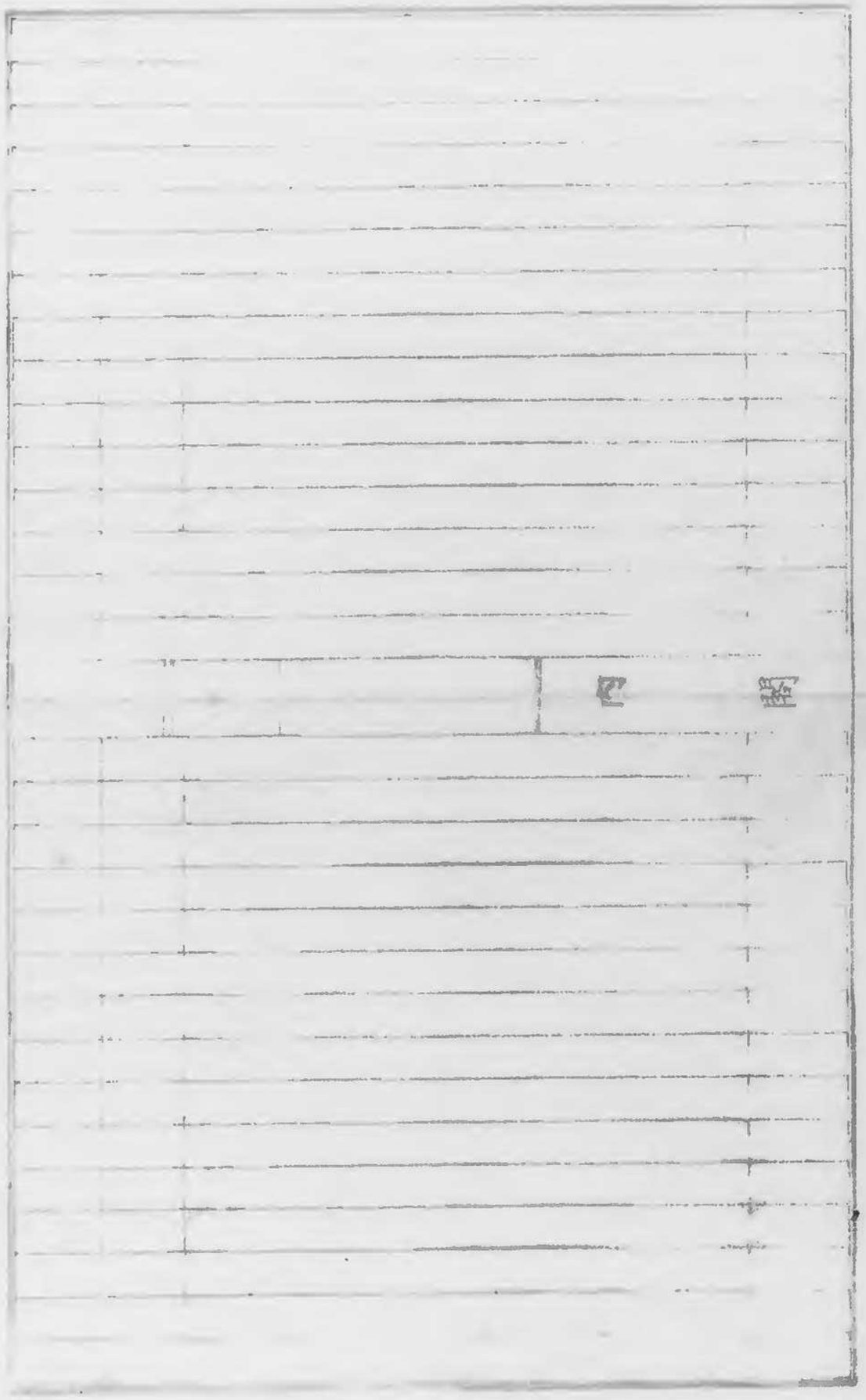
客月十日附ヲ以テ内閣書記官長ヨリ高等官並同待遇履歴書ニ関スル件照會ノ節用紙ハ必要ニ應シ内閣ヘ請求相成度旨申進候得共右ハ別紙見本ノ通各官廳ニ於テ便宜調製相成候様差支無之候為念

追テ初メテ高等官及同待遇ニ任セラルヽ為添付スヘキ履歴書ニハ資格ヲ認ムヘキ学歴、任官、任命、俸給、位勲、外國聘用ノ事項ノミヲ記入スヘシ

別紙

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan



過般貴社より照會の
當市所迄
御廻送相願度
御指示申上一紙及
御通知
中務長官殿

内務大臣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正二年九月十五日

決裁

祕書官

九月二日 第五課 七〇六号

復歴用紙請求書

甲号 二千五百枚

乙号 七千五百枚

右内閣送付ノ旨承知ノ上請求ス

内閣書記官長

祕書官

四年来

高等官並同待遇者ノ任ノ際提出セシメタル履歴書ノ内閣ニ於テ保管セラレタル一通ハ別紙内閣ノ用紙ニ浄書ノ上市提出方成度申ス也

一部之事

警視総監
北海道庁長官
樺太庁長官
宛

貴局部内ニ通牒ス

追テ用紙左記ノ通送付ス

ノ生シタル事ハ詳細報告ス

請求者番号

甲　五十枚

乙　五十枚

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

復原用紙

	甲号	乙号	内訳	甲号	乙号
	二千五百枚	七千五百枚	宮内省	五〇枚	一五〇枚
			三殿	二五〇〇枚	七五〇〇枚
			三府		
			八千三百枚		
			計		

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

大正二年八月四日

山之内内閣書記官長

水野内務次官殿

通牒

曩ニ休日ニ関スル勅令ヲ改正シ天長節ノ外ニ十月三十一日ヲ以テ天長節祝日ト定メラレ宮中ニ於テモ天長節ニハ皇室祭祀令ニ依ル賢所皇靈殿神殿ニ於ケル天長節祭ノミヲ行ハセラレ拜賀参賀賀表捧呈及宴會等ハ天長節祝日ニ於テ行ハセラルルコトニ治定相成候ニ付テハ各廳ニ於テモ自今右ノ趣旨ニ依リ八月三十一日ハ一般休日トシテ聖壽ヲ奉祝スルニ止メ祝賀祝砲勅語捧讀式觀兵式滿艦飾夜會其ノ他後来天長節ニ行ヒタル儀禮式典ハ總テ十月三十一日ニ擧行相成可然ト存候為念

内閣

大正二年八月五日

次官殿

通牒案

内務省

秘書官

八月九日

内務省 六三一

叢、休日ニ關スル勅令ノ改正ニ天長節ノ外ニ十月三十一日ヲ以テ天長節祝日ト定メラレ宮中ニ於テモ天長節ニハ皇室祭祀令ニ依ル賢所皇靈殿神殿ニ於ケル天長節祭ニテ行ハセラレ拜賀參賀表

表呈及宴會等ハ天長節祝日ニ於テ行ハセラルルコトヽ御決定相成候ニテハ各廳ニ於テモ自今右ノ趣旨ニ依リ八月三十一日ハ一般休日トシテ聖壽ヲ奉祝スヘキ儀ニ付祝賀祝砲勅語拜讀式觀兵式滿艦飾庭會其ノ他適當ノ儀禮式典ハ例年十月三十一日ニ擧行致ノ儀ニ付内閣ヲ通シ各省ヲ通シ各廳ヲ通シ通牒方ヲ

秘書官

朝鮮總督府秘書官

国立公文書館
National Archives of Japan

大正二年 第九号

大臣 次官

秘書官

総務局長

丙 一〇九

恩赦令及大正元年勅令第三十號ノ解釋ニ關シ別紙ノ通内閣書記官長ヨリ通牒有之條及移牒候也

年月日

次官

朝鮮総督官房総務局長
臺湾総督府民政長官
樺太庁長官
関東都督
北海道庁長官
各縣知事

三 八七

九年

国立公文書館
National Archives of Japan

大正二年 第九号

恩赦令及大正元年勅令第三号解釋関係ノ件

大臣 秘書官

次官

総務局長

丙第一〇九 案

恩赦令及大正元年勅令第三号解釋ニ関シ別紙ノ通照会方ニ付

記官長ヨリ通牒有之

移牒候也

年月日

次官

朝鮮総督官房総務局長

臺湾総督府民政長官

樺太庁長官

関東都督

北海道庁長官

各縣知事

三

九年

八七

国立公文書館
National Archives of Japan

大正元年文甲二六號

大正二年九月十九日

山之内内閣書記官長

二九九
九一二

水野内務次官殿

依命通牒

恩赦令及大正元年勅令第三十號ニ於テ恩赦又ハ免除ハ將来ニ向テ之ヲ行フコトヲ明記シ加之既成ノ效果ヲ変更スルコトナキ旨ヲ明示スルニ拘ラス尚右ノ效力ニ付キ照會ノ向モ堵之候處其ノ疑義ノ諸點ニ関シテハ左記ノ通解釋スヘキモノト認メ候

内閣

左記

一恩給、退隠料、退官賜金、給助金又ハ退職給與金ヲ受クル資格ハ恩赦又ハ免除ニ因リテ復活スルコトナシ

二恩赦又ハ免除ヲ受ケタル者ノ遺族ニハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ發生スルコトナシ

三恩赦又ハ免除ヲ受ケタル者再任スルモ免官、免職、失官、失職以前ノ在官在職年數ハ恩給又ハ退隠料ノ年數ニ通算セス

四懲戒免官ニ處セラレタル者二年間官職ニ就クヲ得サルノ制限ハ免除ノ日ヨリ消滅ス

五履歴書中ニハ刑事裁判懲戒、懲罰ニ受ケタルコト及恩赦、免除アリタル旨記載スヘキモノトス

大正元年十月廿五日

次官

秘書官

照會案

本月五日勅令第三十號懲戒懲罰免除ニ關スル件ハ將來ニ向テ其懲戒懲罰ヲ免除セントスルニ過キス又懲戒懲罰ノ効果ハ變更セラレス從テ懲戒懲罰ノ免官免職ハ依然懲戒懲罰ノ免官免職ナルヲ以テ右免除ニ因リ貴官ノ退官助金ヲ受クルノ資格ヲ回復スルモノニ非サルハ勿論再任者ニ在リテモ其在官左程年數ハ之ヲ退官助金及恩給年數ニ算入スルヲ得サル義ト思考ス尚貴官ノ意見承知致度此段及照會也

内閣書記官長

大正元年十月廿八日

秋田支

次支

参事支

甲全案

本日サル官費沖一二八號御照会懲戒
懲罰ヲ免除セラレタル者ノ恩給又ハ
退職給金ニ関スル件ハ御見解
ノ通ト存ジ候間御了知相成度
申ノ

新潟県知事支

内務省

大臣元年十月廿二日 一二六

大正元年十月廿一日

新潟縣知事 森 正隆

内務大臣秘書官殿

本月五日勅令第三十號ヲ以テ懲戒懲罰免除ニ関スル件公布相成官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所為ニ付懲戒懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ハ將来ニ向テ其懲戒懲罰ヲ免除セラレ候ニ付テハ懲戒ノ處分ニ依リ免官セラレ未タ二ヶ年ヲ経過セサル為メ官職ニ就クヲ得サルモノハ免除ト仝時ニ官職ニ就クコトヲ得ルハ勿論減俸ノ處分ヲ受ケ未タ減給シ終ラザル俸給ハ免除以後減給サレザル事モ亦勿論ノ義ト存候ヘ共懲戒懲罰ニ基ク既成ノ効果ハ免除ニ依リ変更セラルヽコトナシトアルヲ以テ免官ト為リ恩給又ハ退官賜金ヲ受クル資格ヲ失ヒタルモノハ所謂既成ノ効果ナレハ之ヲ支給スヲ得スト存候摩校職員巡査ニ付テモ仝様ノ義ト解釋致候共疑義相生候ニ付至急何分之義御回示有之度旨及照會候也

新潟縣

大正元年十一月十一日

群馬縣知事依田鋭次郎

内務大臣 拝書官
文部大臣 拝書官

御中

官吏又ハ官吏待遇者ノ懲戒懲罰
免除ニ付恩給支給其ノ他ニ関スル件

本年十月五日勅令第三十号ヲ以テ

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所為ニ付懲戒又ハ懲罰ノ宣告ヲ受ケタル者ニ対シテハ将来ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除セラレ尚今令第三項ニ於テ懲戒又ハ懲罰ニ基リ既成ノ效果ハ免除ニ因リ変更セラルヽコトナシト規定セラレ候ニ就テハ恩給又ハ退隠料ヲ受領シ得ヘキ年限ニ達セスシテ免官職ト為リタル者及今上年限ニ達シタル後免官職ト為リタル者ニ対シテハ左記

群馬縣

国立公文書館
National Archives of Japan

之通取扱ヒ可然哉疑義ニ渉リ候條何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候也

記

一、恩給又ハ退隠料ヲ受クヘキ年限ニ達セスシテ免官職ト為リタル者

イ、免官職以前ノ在官職年数ニ対スル退官賜金又ハ退職給與金ハ支給セス

ロ、免官職ノ後再官職ニ就任シタル者退官職（自己ノ便宜又ハ懲戒ニ依ルモノヲ除ク）トタル時ハ前後相通算シテ退官職賜金又ハ恩給若ハ退職給與金ヲ支給ス

ハ、イ項ノ者其ノ後再任官セスシテ死亡スルモ遺族ニ対シ扶助金ヲ支給セス

二、ロニ該當スルモノ在官職中死亡トタル時ハ其ノ遺族ニ対シ前後在官職年数ヲ通算シ扶助金又ハ扶助料ヲ支給ス

群馬縣

二、恩給又ハ退隠料ヲ受ケヘキ年限ニ達シ
免官職ト為リタル者
イ、此際本人ノ請求ニ依リ恩給又ハ退
隠料ヲ支給ス但シ大正元年十月
五日前ノ分ハ支給セス
ロ、本年十月五日以前ニ死去シタル者
ノ遺族ニ対シテハ扶助料ヲ支給
セス但十月五日以後死亡シタル者ノ
遺族ニ対シテハ請求ニ依リ之ヲ支
給ス

群馬縣

ハ、免官職ノ後再任シタル者ニ対シテハ
恩給退隠料扶助料等ノ支給
ニ関シテハ其官職前ノ在官職
年数ヲ通算ス

面談ニ及ブ上ニテ中山治部少輔ヲ要須ヲ
以テ面談ス而シテ相手ノ方ニ中山連絡ヲ
ヲトリ相手ノ方ニ対シ其旨ヲ記シタル書面ヲ渡シ
ヲ出ス事ト致シ

一、本月五日勅令第三十号ヲ以テ官吏ノ懲
戒又ハ懲罰ノ免除ニ関スル件発布ヲ
成ス処右ニ付目下要有ニ上申中ノ未
審ノ者ニ対シテハ此際出来ル何トカ
ヲ達シ度キ旨ハ既ニ内閣ニ於テ決ス
庶幾クハ至急ノ御配慮ヲ願フ
上奏ヲ以テ御裁可ノ者ニ対シ発令ス
一、右勅令中ハ

北海道廳

27

裏面あり

「懲戒又ハ懲罰ニ基ノ既成ノ効果ハ免除ニ依リ変更セラルヽコトナシ」トアリ右ニ付疑義ノ點

例ヘハ

(イ) 十五年未満ニテ懲戒ニ依リ免官セラレタルモノハ退官場所ヲ設置セサル変革等ニ伴フテ廃止ト決定セラレタル上ハ前記既成ノ効果トシテ今回ノ勅令ノ免除ニ依リ退官場所ヲ設ケタルモノトモ亦タ思考スヘキカ

(ロ) 十五年以上在官ノモノ懲戒ニ依リ免官セラレタルモノハ思ヘラク懲戒ノ効力ヲ消滅スルヲ以テ其既成ノ事実ハ既ニ免除決定セラレタルモノニハ影響ヲ及ホサス

如果トシテ異議陸軍ノ権利ナキモノト思考セラルルカ

以徳戒為先ヲ者今日ハ再ビ

俗界ノ上退去シテ生戒為官ノ

身分ニ復帰シ法ヲ守ラ

以上

高元年十月十五日

[illegible]

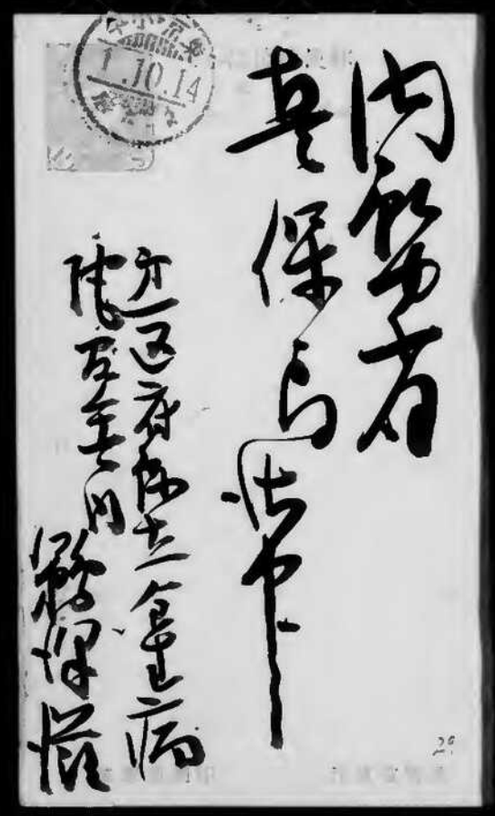
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏面白紙



裏面あり

国立公文書館
National Archives of Japan

伺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

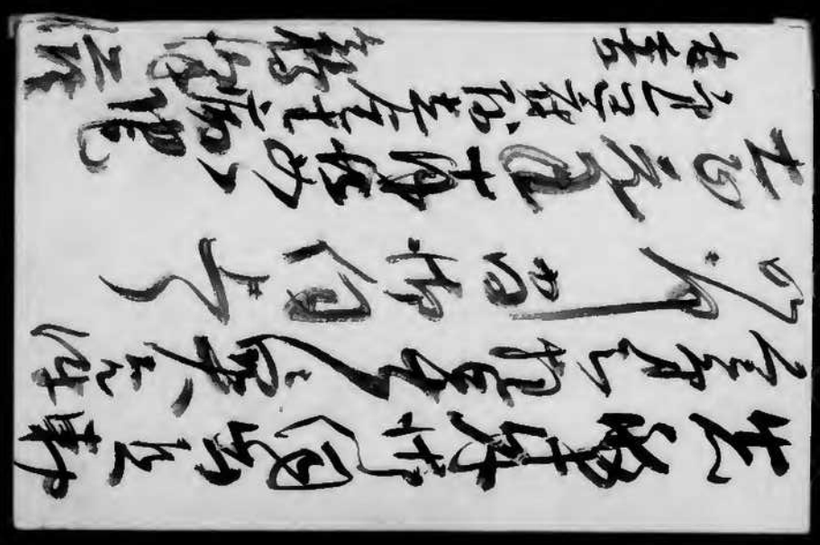
郵便はがき

内務局

印刷局製造　　逓信省發行

裏面あり

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

御伺書

一大正元年十月五日勅令第卅號ヲ以テ官吏及同待遇者ノ懲罰及懲戒所分ヲ免除セラレタルニ依リ法律上ノ権利モ同時ニ復起シタルモノトス被存候就テハ退官又ハ退職當時ノ恩給金及一時金ノ請求権モ共ニ同勅令ニ依リ権利ヲ相生スルモノト被存矣處如何哉單ニ懲戒懲罰所分ヲ取消シタル迄ニテ依願退官又ハ退職ノ全権利ハ無之候ヤ右請求権ノ有無ハ何分御回答相煩度此段伺上候也

大正元年十月廿三日

香川縣仲多度郡榎井村百廿四番地ノ二

宮本俊丈

内務省御中

秘第二一六号

本月五日勅令第三十號ヲ以テ官吏又ハ官吏待遇者ノ懲戒又ハ懲罰免除相成候處該勅令ニ依リ免除セラレタル者ノ内懲戒免官トナリタル者ニ就キ左ノ通相觧シ候ヘ共聊カ疑義ニ渉リ候右ハ縣吏員其他ヘ準用上必要ニ付貴省ノ御取扱振至急御回示相煩ハシ度候

大正元年十月廿六日

宮崎縣知事有吉忠一

内務次官床次竹二郎殿

一在官満十五年以上ニシテ懲戒免官トナリ又ハ在官満十五年末満ニシテ懲戒免官トナリタル者ハ此際ト雖恩給又ハ退官賜金ヲ受ケ得ヘキモノニアラス

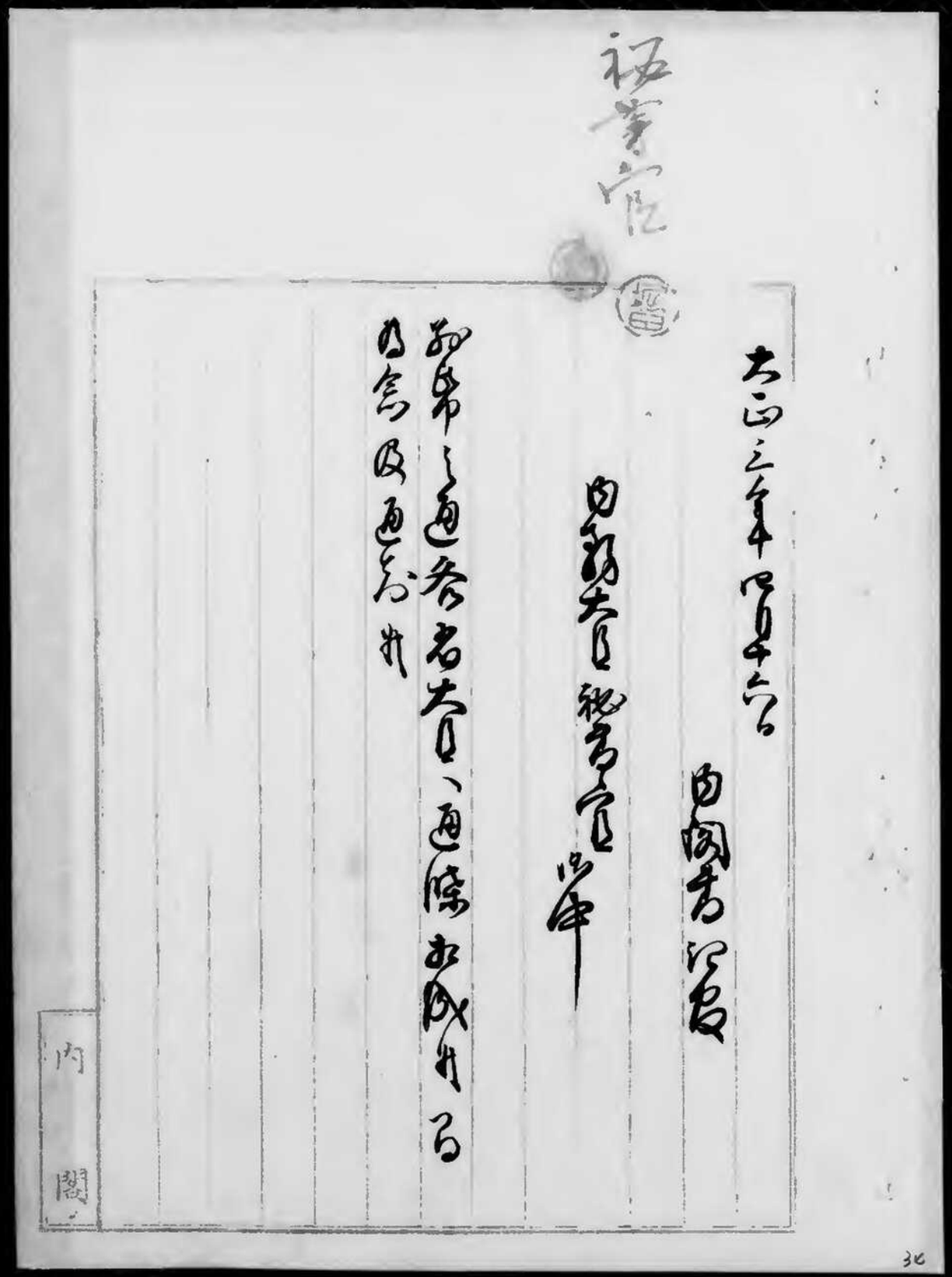
二在官満三年ニテ懲戒免官トナリタル者向後再ヒ任官更ニ満三年ヲ経テ退官シ退官賜金ヲ給與スルトキハ前官在官年数ハ通算スヘキモノニアラス

三在官満十五年以上ニテ懲戒免官トナリタル者向後再ヒ任官シ二年若シハ一

年勤續ノ後退官シタルトキ其退官事由官吏恩給法第二條各号ノ一ニ該當スルトキト雖尚且前官ノ年数ヲ通算スルヲ得ス從テ恩給請求ノ權ナシ

四在官満十年ニテ懲戒免官トナリ向後再ヒ任官シ更ニ五年勤續ノ後退官シタルトキ其ノ退官事由恩給法第二條各号ノ一ニ該當スルトキト雖前同様通算スルヲ得ス從テ恩給請求ノ權ナシ

裏面白紙



内閣

寫

閣議日付

大正三年四月十六日

内閣書記官長江木翼

各省大臣宛

依命通牒

爾今特ニ申上候場合ノ外閣議ハ毎週火曜日金曜日ノ両日午前十時ヨリ内閣總理大臣官邸ニ於テ被開候

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

五

八九

内閣 五三号

大正三年六月二日

江木内閣書記官長

下岡内務次官殿

別紙朝鮮總督臺湾總督宛通牒傳送

相成度

内閣

三六二
三五二

36

裏面白紙

内閣書記官長

大正三年六月二日

内閣書記官長

下岡内務次官殿

通牒

伊國制度視察及調査ノ為渡伊スル本邦官民取扱振ニ関スル件別紙ノ通外務大臣ヨリ申牒有之候間今後一層注意相成度

通達第一百五号

伊國制度視察及調査ノ為渡伯スル本邦官民取扱振ニ関スル件

歐米諸國ノ制度視察及調査ノ為渡伯スル本邦官民ノ取扱振ニ関シテハ一昨年中在獨墨國時代理大使ヨリ本官英京在勤中提出セル建議寫相添中進置タル心次第有之候處今回更ニ在伊林大使ヨリ別紙寫ノ通リ上申有之候本件ニ関シテハ從來既ニ夫々御注意相成居候事ト存候得共尚伊國ニ関スル限リ同國駐劄帝國大使ヨリ右ノ上申ヲ見ルニ至レル上遺憾ノ義ニ有之為念右上申寫茲ニ供覧候間相當御指置相成度様致度尤本件進候也

大正三年五月二十九日

外務大臣男爵加藤高明

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

公第三七號

昭和三年四月二十四日

長官

特命全權大使男爵幣原喜重郎殿

外務大臣男爵 加藤高明

視察又ハ調査ノ為ト称シ渡来スル本邦
官民ノ取扱振ニ関スル件

當國ニ於ケル支那側ノ視察又ハ調査ノ為ト称シ渡来シ本邦官民ト面会シ或ハ當国官憲ニ訓令ノ上ニ結合ニ係ル者ニ対シテハ當国官憲ニ於テ各方面ノ公私國体ニ結合状ヲ與ヘラレ其

相應幹旋便宜取計ニ居リ夫迄動モスレハ此等来遊者中ニハ語學ノ素養不充分ニシテ當國當事者ノ説明指示ノ了得シ難キモノアリ又或ハ廣汎ナル問題ヲ提ケテ之レヲ確々數日ノ滞在中ニ畳了セント欲スルカ如キ到底不可解ノ企画ヲ申出ツルモノアリ其他調査上必要ノ準備ヲ怠リ居ル者要スルニ不用意千萬ノ向モ有之 嘱託ノ如キ名義ノ下ニ渡来スル者ノ如キハ著シク体裁ヲ存シ官命ニ依リ派遣セラルヽモノニ在リテモ亦眞面目ニ派ラサルモノ本尠カラス一方紹介ヲ接受スル伊国當局者ノ側ニ於テハ當館ニ対シ好意上喜ヒテ斉邦来遊者ヲ迎ヘ斡旋盡力スルニ當リ其人ノ態度右ノ如ク甚タ眞摯ナラストアリテハ

[illegible]ノ立場ニ[illegible]ル[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]ノ
[illegible]ハ程度如何可有之哉事 當国宮内省ニ
関係スル場合ノ如キハ尚更注意ヲ要スル事ニ属スル
ヲ以テ自然當館ニ於テモ種来往者ニ対シ紹介
ヲ発スルニ當リテハ不安ノ念ニ駆ラレ聊カ躊躇セサル
ヲ得サル次第ニテ往来其取扱上屢次不便ヲ相
感シ居リ矣儀ニ有之矣又一方聞ク所ニ依レハ所
謂在邦視察員ト称スル者ノ中ニハ恩恵的ノ意
味合ヲ以テ海外ニ派遣ヲ命セラレ又嘱托ノ名義
ハ往々ニシテ報酬的ノ方便ニ供セラルヽカリテ従テ
其調査事項ノ如キハ単ニ名目ヲ与フルニ過キサル
場合モ有之哉ニ矣然若シ果シテ然ランニハ調査事
項ハ多ク加減ニテ可其次シモ眞面目ナル紹介ナド

ハ不要ニ可有之ト存矣尚本邦各廳ヘモ御移際ノ
上本件ニ趣旨徹底致度様御取計相煩度此
段及重儀候敬具

六

大正三年七月六日

内閣書記官長江木翼

内務大臣秘書官御中

本月十日ヨリ九月十日ニ至ル間ニ於テ閣議ハ毎週木曜日午前九時ヨリ首相官邸ニ於テ開カルルコトニ変更相成候ニ付為念御通知申上候

追テ本月十日ハ閣議ノ定日ニ有之候ニ付

首相旅行ニ付閣議不被開候

内閣

41

裏面白紙

大正三年十月二日

秘書官

大臣

次官

通牒案

年月日

警視総監 次官

北海道廳長官

樺太廳長官

府縣知事

朝鮮総督府総務局長

臺湾総督府民政長官

内務省

七九〇

十月八日

内務省 二七九號 通牒

叙勲内別及恩賜

取扱手續中別紙ニ通改正ノ旨通牒有之度

也

内務省

沖縄県

北海道庁

内務大臣

完了通

無二〇〇

大正三年九月三十日

内閣總理大臣伯爵大隈重信

内務大臣伯爵大隈重信殿

通牒

上申ヲ經テ左記ノ通改正内則中ニ改正ヲ加ヘ本年十一月一日ヨリ施行シタトニ決定致候

第十九條　第六條ニ據リ啟蟄ヲ請フヘキ者アルトキハ所管長官ハ本人ノ履歴書ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ上奏スルコトヲ得所管長官ニ於テハ内閣總理大臣ニ具申スルノ權限ナキトキトヲ得

第十八條ニ據リ啟蟄ヲ請フヘキ者アルトキハ所管長官ハ本人ノ履歴書ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ上奏スヘシ

第二十一條　削除

第二十三條　削除

第二十八條　削除

第二十二條中「市」ヲ「具市」ニ改ム

内　六五五

大正三年九月三十日

賞勲局總裁伯爵正親町實正

内務大臣伯爵大隈重信殿

通牒

叙勲内則取扱手續中別紙ノ通改正シ大正三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賞勲局

44

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

第二條中「定期敍勲ノ上奏又ハ申牒」ヲ「敍勲
内則第十九條第一項ニ據ル敍勲ノ上奏書又
ハ具申書」ニ改ム

第三條　削除

第四條及書式中「申牒」ヲ「具申」ニ改ム

第五條中「定期敍勲上奏又ハ申牒書」ヲ「敍
勲内則第十九條第一項ニ據ル敍勲ノ上奏書
又ハ具申書」ニ改ム

賞勲局

45

裏面白紙

大正三年十一月十八日

秘書官

丙九〇〇號 通牒 案

内務大臣秘書官

警視總監
北海道廳長官
樺太廳長官
府縣知事
造神宮副使

宛各通

青木九日 発行

九一

通牒

叙勲内則中曩ニ改正相成候要旨ニ付今般別紙ノ通内閣書記官ヨリ通牒有之候條訴趣旨ニ依リ内申相成度候也

丙九〇一號 又

朝鮮總督府
臺灣總督府

内務大臣秘書官
總務局長
官房秘書課長

宛各通

青木 発

叙勲内則中曩ニ改正相成候要旨ニ付別紙ノ通内閣書記官ヨリ通牒ガ

之候ニ付及移牒候也

国立公文書館
National Archives of Japan

叙勲内則ノ改正ニ付

大正三年十一月十七日

内閣書記官

内務大臣・拓殖局長官

通牒

本年九月三十日叙勲内則中改正ノ件内閣
總理大臣ヨリ貴省大臣宛通牒相成候處
右改正ノ要旨ハ
一、叙勲内則ニ依ル文武官ノ叙勲ハ一年二回定期
ノ制ヲ廃シ叙勲ノ定限ニ達シタル者ハ其ノ都
度叙勲スルコト（第十九條改正、第二十三條削除）
二、陞級轉任又ハ増俸茲両任服役ニ付従来ノ除算期間
ヲ廃止シタルコト（第二十一條及第三十八條削除）
ニ有之候ニ付テハ本月一日以後叙勲定限ニ達シタル者
アルニ於テハ其ノ都度叙勲上奏手續（内閣總理
大臣ヘ具申手續）相成度尚舊叙勲内則ニ依リ上
奏書（申牒書）進達後ニ於テ右ニ依リ叙勲定限達
シタル者ニ対シテモ同様手續相成度右改正ノ趣旨
徹底セラレ向モ可之候哉ニ付一應参考ニ供シ候

大正三年十二月二十四日 秘書官

大臣 次官 通牒案

年 月 日

次官

警視総監
北海道庁長官
樺太庁長官
府県知事
朝鮮総督府政務総監
台湾総督府民政長官

告示完了後
神社局長
神宮大宮司 右各通

八、九二

丙第一二二七号

十二月廿二日
起 相川

勲記取扱ニ関スル件 通牒

別紙写ノ通賞勲局総裁ヨリ本省大臣ヘ照会有之此際一層注意取扱方ニ付御示達相成度

候

大正三年十二月二十四日　秘書官

大臣　次官　通牒案

年　月　日

警視総監　次官

北海道庁長官

樺太庁長官

府県知事

朝鮮総督府[redacted]

台湾総督府民政長官

告示、宮司別使

神社局長

神宮大宮司　丸会

八
九二

十二月廿四日
裁可

内閣官房　丙第一一三七号　通牒

勲記所持者ノ葬儀ニ別紙写ノ通（通）

各院裁判所各大臣ヨリ通牒有

之候條一層注意ヲ加ヘ相成度（附添年

勲記取扱ニ関スル件

内務大臣伯爵大隈重信殿

大正三年十二月十二日

賞勲局

勲記取扱ニ関スル件

従来各勲ニ関シ勲記傳達ノ際其本人ニ交付セラルル前既往ハ二次ノ事故ニ再下付ノ請求ヲ為ス者アル時ハ当局ニ於テ其理由ヲ有之候哉右ハ当局ニ於テ本人ニ再交付ノ申請ヲ為サルヲ以テ其理由ヲ有之候哉

右ハ勲記ノ紛失者ニ付之ヲ公報ニ掲載シ其筋ニ於テ取扱ノ責任者ニ相当ノ処分ヲ為シ本書ヲ以テ勲記取扱ニ付テハ今後一層注意セシメラレ度

賞勲局

九八九

勲記取扱ニ関スル件

三五六

一一三八

九、

九三

2

内發第五〇六號

大正四年四月二十七日

賞勲局總裁伯爵正親町實正

内務大臣子爵大浦兼武殿

通牒

勲記・國璽願ニ添附スル必要有之候ニ付
叙勲内規取扱手續第五條ニ依ル名簿
ニ、目録副本添附有之度
但、右副本ニハ叙勲定限、勤務年月、勲
記番號、官名、官等ノ記載ヲ要セス

四四九
第二〇〇

51

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

内務第五〇六號

大正四年四月二十七日

賞勲局總裁伯爵正親町實正

内務大臣子爵大浦兼武殿

通牒

勲記・國璽願ニ添附スル必要有之候ニ付
叙勲ノ際取扱手續第五條ニ依ル名簿
ニ、自今副本添附有之度
但シ右副本ニハ叙勲定限、勤務年月、勲
記番號、官名、官等ノ記載ヲ要セス

四四九
二〇〇
51
九、九三
めくれず
裏面白紙

一〇、九四

秘書官

物 五二號

大正四年六月廿九日

賞勲局書記官

四月大臣官房秘書官

勲等褒章授与ノ為メ本局ニ進達

物品受取ノ為メ近日貴官ノ向ヲ出ス

ベキ一件自今ハ為メ

ベシ

賞勲局

四六時中 四年七月一日 一七七号

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

内閣甲第六九五

参政官、副参政官ヲ置キ其職務ヲ定ム

大正四年七月二日

内閣書記官

大浦内務大臣啟

勅命遵守

参政官副参政官ノ出張旅行ニ関スル件

左ノ通閣議決定相成候

一 参政官副参政官ハ特ニ已ムヲ得サル必要アル場合ヲ除クノ外出張ヲ

命セサルコト

二 地方遊説、政況視察等ノ為ニ八ル参政官副参政官ノ私費旅行ハ職務ノ為ノミ限リ之ヲ許スコト

可ス

大臣ニ於テ之ヲ許

53(1/2)

大正四年八月十八日

次官　秘書官

八九

大正四年　月　日　通牒案　秘書官

警視總監
北海道廳長官
樺太廳長官
府縣知事
造神宮副使
神社局長

九六

明治神宮造營局長

通牒

本月九日通牒文武官叙位進階内則改正ノ件第八條ノ二第二項「前項第一號乃至第三號」ハ「前項第一號乃至第四號」ノ誤ニ有之候

究

大正四年八月十一日

内閣書記官室

内閣大臣殿

本月八日通牒文官叙位進階内務大臣ノ件第八條二項第一號乃至第三號ノ内閣第一號乃至第三號ノ誤ニ付訂正ス

裏面白紙

大正四年八月四日

江木内閣書記官長

久保田内務次官殿

秘書官

牒

文武官敘位進階内則中別冊ノ通改正

相成候

内務

55

国立公文書館
National Archives of Japan

文武官敘位進階内則中左ノ通改正ス

第一條　文武官ノ敘位進階ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外本内則ニ依ル

第二條　第一項中「後満一箇月ヲ経過」及但書ヲ削ル

第四條　第一項中「状況ニ依リ」ノ下ニ「第一號ノ場合ヲ除ク」外一箇月ヲ経過セサル期間内ニ於テ」ヲ加ヘ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ其ノ極位ヲ超ユルコトナシ

第四條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ依ル進階ノ後任官就職シタル者ハ其ノ在職更ニ満十年ヲ経過スルニ非サレハ前項ヲ適用セス

第四條　第三項中「前項ノ限ニ非ス」ヲ「第一項ノ限ニ在ラス」ニ改ム

第四條ノ二　高等官在職満十年以上ニシテ死亡シタルトキハ危篤ノ際進階セラレサリシ者ニ限リ其ノ勤勞ノ状況ニ依リ死亡ノ日ヨリ十日ヲ経過セサル期間内ニ於テ生前ノ日ヲ以テ特ニ位一級ヲ追陞スルコトヲ得但シ其ノ極位ヲ超ユルコトナシ

従二位以上ニ追陞スルハ前項ノ限ニ在ラス

第七條　判任文官在職満二十年以上、判任武官左職満十五年以上ニシテ勤勞アル者ハ左ノ標準ニ依リ敘位セラルルコトアルヘシ

正七位

判任文官特別俸ヲ受クル者及判任官從七位ニ敘セラレ滿五年以上ヲ經過シタル者

從七位　判任官一等及二等ノ者

同八位　判任官三等ノ者

從八位　判任官四等ノ者

前項ニ依リ敘位セラレタル者俸給增加シ又八等級陞リタルトキハ其ノ相當位ニ進階スルコトヲ得

同七位ニ敘セラレタル後滿十年ヲ經過シ勤勞顯著ナル者ハ從六位ニ進階スルコトヲ得

第八條第一項中「停職、休職」ヲ「待命、休職、停職」ニ改ム

第八條第二項及第三項ヲ削ル

第八條ノ二　本官並其ノ待遇者ノ在職年數ハ相互ニ之ヲ通算ス其ノ通算ニ關シテハ左ノ各號ニ依ル

一　勅任奏任及判任待遇ノ在職年數ハ各其ノ本官ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

二　判任官ノ在職年數ハ高等官ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

三　判任待遇ノ在職年數ハ高等官ニ對シ三分ノ二ヲ減ス

四　奏任待遇ノ在職年數ハ勅任官ニ對シ三分ノ二ヲ減ス

五　奏任待遇ノ在職年數ハ勅任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

六　判任待遇ノ在職年數ハ勅任及奏任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

七　判任官ノ在職年數ハ勅任及奏任待遇ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

八　勅任官及奏任官ノ在職年數ハ各其ノ上級ノ待遇ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

九　奏任官ノ在職年數ハ親任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

十　上級官階及其ノ待遇ノ在職年數ハ下級官階及其ノ待遇ニ對シ增減セス

前項第一號乃至第三號ハ第四條及第四條ノ二ノ場合ニハ之ヲ適用セス

判任文官及判任武官ノ在職年數ハ相互ニ之ヲ通算ス

神宮並官國幣社職員宮內官及其ノ待遇者ノ在職年數ハ本則ノ敘位年數ニ通算ス其ノ通算ノ方法ハ第一項各號ノ例ニ依ル

第九條　進階年數ハ懲戒懲罰及刑罰ヲ受ケタルル者ニ付テハ左ノ標準ニ依リ之ヲ除算ス但シ懲戒懲罰ノ免除ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

懲戒懲罰

減俸減給

十五日以上ノ謹慎營倉拘禁、三十日以上ノ禁足

轉所

停職

免官免職

刑罰

一年未滿ノ禁錮

失官

一箇年

一箇年

一箇年半

二箇年

既往ノ全年數

一箇年

既往ノ全年數

国立公文書館
National Archives of Japan

秘

内務大臣官房丙第一五八號

文武官敘位進階内則別冊之通改定相成候條此段及通牒候也

明治三十三年二月二十七日

内務大臣秘書官

国立公文書館
National Archives of Japan

文武官叙位進階内則別冊之通改定セラレ来三月一日ヨリ實施候間此段及御通牒候也

明治三十三年二月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内務大臣侯爵西郷従道殿

国立公文書館
National Archives of Japan

内務大臣官房丙第六四八號

大正四年八月九日

内務大臣秘書官

通牒

文武官敍位進階内則別冊ノ通改正相成候

国立公文書館
National Archives of Japan

文武官敍位進階内則

第一條　文武官ノ敍位進階ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外本内則ニ依ル

第二條　高等官新任陞等スルトキハ別表ニ依リ其ノ初敍位ノ位記ヲ賜フ
高等官初敍位ニ敍セラレタル後勤勞ヲ累ヌルニ從ヒ別表ニ依リ漸次進階セシム

第三條　高等官新任陞等ノ時已ニ初敍相當位以上ノ位ヲ有スル者ハ其ノ位階ノ敍日ヨリ起算シ前條ノ例ニ照シ進階スルコトヲ得

第四條　高等官在職滿十年以上ニシテ左ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ勤勞ノ狀況ニ依リ第一號ノ場合ヲ除クノ外一箇月ヲ經過セサル期間内ニ於テ特ニ位一級ヲ進ムルコトヲ得但シ其ノ極位ヲ超ユルコトナシ

一　病氣危篤ノトキ

二　廢官退官退職ノトキ

三　陸海軍將校豫備後備（在職者ヲ除ク）若クハ退役ノトキ

前項ニ依ル進階ノ後任官就職シタル者ハ其ノ在職更ニ滿十年ヲ經過スルニ非サレハ前項ヲ適用セス

從二位以上ニ進階スルハ第一項ノ限ニ在ラス

第四條ノ二　高等官在職滿十年以上ニシテ死亡シタルトキハ危篤ノ際進階セラレサリシ者ニ限リ其ノ勤勞ノ狀況ニ依リ死亡ノ日ヨリ十日ヲ經過セサル期間内ニ於テ生前ノ日附ヲ以テ特ニ位一級ヲ追陞スルコトヲ得但シ其ノ極位ヲ超ユルコトナシ

從二位以上ニ追陞スルハ前項ノ限ニ在ラス

第五條　勅任待遇者ハ在職滿二年ノ後正五位ニ敍シ滿五年ヲ經テ一階ヲ進ムルコトヲ得

第六條　奏任待遇者ニシテ官等ニ准シ其ノ待遇ヲ受クルモノハ在職滿三年ノ後第二條ノ例ニ照シ初敍相當位ニ敍スルコトヲ得其ノ後滿六年毎ニ進階シ相當位ヨリ陞敍二階ニ至テ止ム其ノ他ノ待遇者ハ在職滿三年以上ヲ經テ正七位以下ニ初敍シ其ノ後滿六年毎ニ進敍シ二階ニ至テ止ム

第七條　判任文官在職滿二十年以上、判任武官在職滿十五年以上ニシテ勤勞ア

ル者ハ左ノ標準ニ依リ敍位セラルルコトアルヘシ

正七位

判任文官特別俸ヲ受クル者及判任官從七位ニ敍セラレ滿五年以上ヲ經過シタル者

從七位

判任官一等及二等ノ者

正八位

判任官三等ノ者

從八位

判任官四等ノ者

前項ニ依リ敍位セラレタル者俸給增加シ又ハ等級陞リタルトキハ其ノ相當位ニ進階スルコトヲ得

正七位ニ敍セラレタル後滿十年ヲ經過シ勤勞顯著ナル者ハ從六位ニ進階スルコトヲ得

第八條　進階年數ニハ文官ニ在テハ休職、待命、武官ニ在テハ待命、休職、停職、豫備役、後備役ヲ除算ス但待命、豫備役、後備役ト雖モ在職者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條ノ二　本官竝其ノ待遇者ノ在職年數ハ相互ニ之ヲ通算ス其ノ通算ニ關シテハ左ノ各號ニ依ル

一　勅任奏任及判任待遇ノ在職年數ハ各其ノ本官ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

二　判任官ノ在職年數ハ高等官ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

三　判任待遇ノ在職年數ハ高等官ニ對シ三分ノ二ヲ減ス

四　奏任待遇ノ在職年數ハ勅任官ニ對シ三分ノ二ヲ減ス

五　奏任待遇ノ在職年數ハ勅任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

六　判任待遇ノ在職年數ハ勅任及奏任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

七　判任官ノ在職年數ハ勅任及奏任待遇ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

八　勅任官及奏任官ノ在職年數ハ各其ノ上級ノ待遇ニ對シ三分ノ一ヲ減ス

九　奏任官ノ在職年數ハ親任待遇ニ對シ二分ノ一ヲ減ス

十　上級官階及其ノ待遇ノ在職年數ハ下級官階及其ノ待遇ニ對シ增減セス

前項第一號乃至第三號ハ第四條及第四條ノ二ノ場合ニハ之ヲ適用セス

判任文官及判任武官ノ在職年數ハ相互ニ之ヲ通算ス

神官竝官國幣社職員宮內官及其ノ待遇者ノ在職年數ハ本則ノ敍位年數ニ通算ス其ノ通算ノ方法ハ第一項各號ノ例ニ依ル

第九條　進階年數ハ懲戒懲罰及刑罰ヲ受ケタル者ニ付テハ左ノ標準ニ依リ之ヲ除算ス但シ懲戒懲罰ノ免除ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

懲戒懲罰

減俸減給　一箇年

十五日以上ノ謹愼營倉拘禁、三十日以上ノ禁足　一箇年

轉所　一箇年半

停職　二箇年

免官免職　既往ノ全年數

刑罰

一年未滿ノ禁錮　一箇年

失官　既往ノ全年數

文武官敍位進階表

官位等階	内閣總理大臣 各省大臣 樞密院議長 陸海軍大將	親任官 親任待遇	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等 九等
正一位										
從一位										
正二位	進階滿七年									
從二位	進階滿五年	進階滿七年								
正三位	進階滿三年	進階滿五年	進階滿九年							
從三位	進階滿二年	進階滿三年	進階滿五年	進階滿十二年						
正四位	初敍	進階滿二年	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年					
從四位		初敍	進階滿三年	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年				
正五位			初敍	初敍	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年			
從五位					初敍	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年		
正六位						初敍	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年	
從六位							初敍	進階滿五年	進階滿五年	進階滿十四年
正七位								初敍	進階滿五年	進階滿五年
從七位									初敍	進階滿五年
正八位										初敍
從八位										

国立公文書館
National Archives of Japan

大正四年八月五日

次官

會計課長

秘書官

八月九日

丙六四八號 通牒案

大正四年八月日

警視總監
北海道廳長官
樺太廳長官
府縣知事
造神宮副使
神社面長
明治神宮造營面長

宛

秘書官

秘

論旨

文武官敘位進階内則別冊ノ通
改正相成候

通牒

通牒之別冊百部印刷

印刷部ノ注文ノ通

朝鮮
台湾

内閣より通牒濟

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

大臣 次官

大正四年九月十日

江木内閣書記官長

通牒

来週ヨリ定例閣議ハ毎週火曜金曜ノ両日午前十時永田町首相官邸ニ於テ開催ノ事ニ相成候

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

秘

閣甲第一二號ヲ以テ閣議ヲ請ヒタリ仍テ

大正四年二月二十三日

内閣書記官長 江木 翼

内務大臣子爵大浦兼武殿

依命通牒

左記ノ通閣議決定相成條

一四、九七

左ノ各官ヲ本官トスル者ヲ除クノ外官吏並待遇官吏其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス官務ニ非ス若シ衆議院議員ニ當選スルモノ議員ヲ兼スルノ許可ヲ與ヘサルコト

一國務大臣
一鐵道院總裁
一朝鮮總督府政務總監
一内閣書記官長
一法制局長官
一各省參政官同副參政官ノ任用ニ至ル迄ノ間各省次官
一秘書官
一秘書

朝鮮総督ヲ官任ニ付テハ閣議ヲ以テ定ムル事

69

大正四年一月十四日

大臣 [illegible]

秘書官

地方局長

警保局長

秘

一月十八日 達

二七

通牒案

特種會社ノ役員ニシテ政府ノ許可又ハ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ職務ニ就クコトヲ得サル者ニ對シテ政府ハ衆議院議員ヲ兼ヌルコトヲ許可セサルノ方針ニ決定相成ル旨通牒ス右之ニ準シ[illegible]

年月[illegible]

朝鮮総督府

政務総監

次官

一五 九八

国立公文書館
National Archives of Japan

朝鮮銀行法

第十條　總裁及理事ハ何等ノ名稱ヲ以テスルニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

臺灣銀行法

第十四條　頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

北海道拓殖銀行法

第六條　取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス但營利ヲ目的トセサル職務ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

東洋拓殖株式會社法

第十條　總裁副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

内閣 甲第一号

大正四年一月十三日

内閣書記官長 江木翼

内務大臣子爵大浦兼武殿

依命通牒

特種会社ノ役員ニシテ政府ノ許可又ハ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ職務ニ就クコトヲ得サル者ニ對シテ政府ハ衆議院議員ヲ兼ヌルコトヲ許可セサルノ方針ニ決定相成候ニ付右御了承ノ上可然處理相成度

内閣

裏面白紙

寫

勲内發第六九四号

大正四年五月廿五日

賞勲局総裁伯爵正親町實正

内務大臣子爵大浦兼武殿

通牒

今般勲章授与式例別帝ノ通御治定相成候条兼知相成度

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

勲章授与式例（大正四年五月二十三日裁可）

第一條　勲章ノ授与ハ特別ノ場合ヲ除クノ外本例ノ定ムル所ニ依リ式ヲ設ケテ之ヲ行フ但シ皇族、婦人又ハ外國人ニ對スル勲章ノ授与ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　勲三等功四級以上ニ敍セラレタル在京者ニ対シテハ宮中ニ於テ賜授ノ式ヲ行ヒ其ノ勲章ヲ授与ス

宮中賜授ノ式ハ親授式奉授式トス

第三條　親授式ハ勲一等功二級以上ニ敍セラレタル者ニ対シ其ノ勲章ヲ授与スル場合ニ之ヲ行ヒ

天皇親臨シテ之ヲ賜フ

第四條　奉授式ハ勲二等、勲三等功四級又ハ功五級ニ敍セラレタル者ニ対シ其ノ勲章ヲ授与スル場合ニ之ヲ行ヒ賞勲局総裁旨ヲ奉シテ之ヲ授フ

前項ニ揚クル場合ノ外奉授式ハ事故ニ由リ親授式ヲ行ハセラレサルトキ亦之ヲ行フ

第五條　宮中賜授ノ式ニ依リ勲章ヲ授与セラルヘキ者以外ノ者ニ授与スヘキ勲章ハ賞勲局総裁之ヲ所管長官ニ傳達シ所管長官適宜式ヲ設ケテ之ヲ授与ス

事故ニ由リ奉授式ヲ行フ能ハサル場合又ハ受章者宮中賜授式ニ参内スル能ハサル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

内務省

大正四年八月廿六日

秘書官

通牒案

樺太廳長官宛

秘書官

六九六　通牒

従来貴廳特定郵便局長ノ叙位ハ文武官叙位進階内則ノ一般規定ニ依ラス別ニ定メタル所ニ準據シ叙位セラレ候處今般同内則改正ノ規定ニハ判任官叙位ノ標準ハ等級ニ依リ定メラレタルニ付郵便局長モ他ノ判任官同様文武官叙位進階内則ノ一般規定ニ依リ叙位セラルヘキ義ト存ス假令内閣書記官ヨリ通牒有之

大正四年八月二十五日

内閣書記官

四八共
四五一

内閣大臣 [illegible]

為念通牒

従来特旨ヲ以テ定メタル郵便局長ノ叙位ハ文武官叙位進階内則ノ一般規定ニ依ラス別ニ定メタルモノニ準據シ叙位セラレ候處今般同内則改正ノ規定ニハ判任官叙位ノ標準ハ等級ニ依リ定メラレタルニ付郵便局長モ他ノ判任官同様文武官叙位進階内則ノ一般規定ニ依リ叙位セラルヘキ義ニ有之候

閣甲第一七號
大正六年三月二日

内閣書記官長伯爵兒玉秀雄

内務大臣男爵後藤新平殿

依命通牒

左記ノ通閣議決定相成候

一、大正四年十二月二十三日ノ閣議決定ニ據ル官吏ノ外帝國大學教授ハ衆議院議員タルコトヲ許可シ得ルモノトス

十二月ノ誤

一〇二

大正六年三月三日

内閣書記官

内務大臣秘書官殿

昨二日送付致候閣甲第一七号通牒中
大正四年ノ下ニ二月八二月ノ誤ニ有之度間為
念申進候

79

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

一六一〇三

四月三十日

三二三

大正六年四月十八日

秘書官

照會案

秘書官発

臺灣總督
樺太廳長官
拓殖局長官
造神宮副使
明治神宮造營局長
宛各通

照會

別紙寫ノ通賞勲局ヨリ照會有之候ニ付
條敍勲內申書ニ添付セラルヽ履歴
書ノ年月日ノ記載方ハ事項ヲ顕ハシ
候ニハ其旨無漏記入セラレ度

(別紙)

内　四四二

大正六年四月十三日

内務省御中

賞勲局

照會

叙勲ノ申立書ニ添附スル履歴書ノ年月内ニ於テ授與セラレタル記章受領ノ旨ヲ同履歴書ニ記載セサル向往々有之候處斯クテハ當局名簿湊合上不便尠カラス候ニ付可成無漏記入セラレ候樣致度

賞勲局

六　四十三

丙第二三號

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

丙第三二二號

内務大臣　祕書官

照會

別紙寫之通賞勲局ヨリ照會有之候條
叙勲内申書ニ添付セラルル履歴書ノ年月
内ニ於テ記章受領ニタルモノハ今ニハ其旨無
漏記入セラレ度

（別紙）

勲内發第四四三號

大正六年四月十三日　賞勲局

内務省御中

照會

叙勲ノ申立書ニ添附スル履歴書ノ年月内ニ
於テ授與セラレタル記章受領ノ旨ヲ同履歴
書ニ記載セサル向往々有之候處斯クテハ當
局名簿湊合上不便尠カラス　假ニ付可成無
漏記入セラレ候樣致度

各府県官員異動報告ノ件

大正七年四月十八日

内閣書記官

秘書官

内務大臣秘書官

御中

通牒

各省所管ニ属スル各種委員會ノ會長、副會長、議長、副議長、委員長、副委員長、議員、委員、幹事長、幹事、主事、顧問等ニ付テハ當室ニ名簿ヲ備ヘ其ノ異動毎ニ訂正致居候處、或ル資格ヲ有スルカ為委員、會官制其ノ他ノ規程ニ依リ委員タル場合及其ノ者其ノ資格ヲ失ヒタル結果當然委員タル資格ヲ消失シタル場合等ニシテ特ニ委員ノ命免ノ上奏手續ヲ執ラサル場合茲ニ委員死亡ノ場合等ニ在リテハ其ノ旨御通牒ニ接セサル限リ之ヲ承知スルニ非常ノ手數ヲ要シ候ニ付尓今貴省所管ニ属スル左記ノ異動ニ付テハ其ノ都度御一報相煩度此段及御依頼候也

左記

各種委員會ノ會長、議長、委員長以下議員、委員、幹事、主事等ノ異動並其ノ年月日但シ官報ニ其ノ旨掲載セラルルモノヲ除ク

110. 一〇四

83

国立公文書館
National Archives of Japan

七四六
五六

異動報告ノ件

四月十八日

内閣書記官

内大臣秘書官

御中

通牒

各官ニ属スル各種委員會ノ會長、副會長、副議長、委員長、副委員長、議長、幹事長、幹事、主事、顧問等ニ付テハ名簿ヲ備ヘ其ノ異動毎ニ訂正致居候間、格別ノ事情ヲ有スルカ為委員會官制規程ニ依リ委員タル場合及其ノ他ノ法令ニ依リ委員タル場合ニ於テ特ニ委員命免ノ稟請ヲ執ルヘキ場合等ニテ特ニ委員死亡ノ結果當然委員タル資格ヲ失ヒタル場合ニ在リテハ其ノ旨御通牒ニ接セサル限リ知スルニ非常ノ手數ヲ要シ候ニ付尓所管ニ属スル左記ノ異動ニ付テハ及御一報相煩度此段及御依頼候也

左記

員會ノ會長、議長、委員長以下委員、幹事、主事等ノ異動就其ノ但シ官報ニ其ノ旨掲載セラルルモ

滋調査會
保衛生調査會
東市區改正委員會
中衛生會
日局方調査會
評議員（警視廳）

原本不明瞭

国立公文書館
National Archives of Japan

六六

二一一〇五

大山大将

大臣

侍従長

陸軍大臣

李王殿下御東上 送迎方ニ付
別紙写ノ通申越方之ヲ二付
ヲ以テ御内示ス

追テ御旅行日程ハ本日付次官依命通牒ニ添付方ニ
付為念申添

東京
京都
大阪
神奈川
兵庫
愛知
静岡
岐阜
岡山
鹿児島
山口

以上府知事宛

李王殿下御旅行ニ関スル件

大正六年六月六日

以上 内閣書記官長

内閣内務局官吏

別紙写ノ通山梨政務総監ヨリ申出
有之候ニ付其筋ヘ送致

内閣

85

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

電報譯

官吏ヲ派遣シ十府三十縣ヲ分治ス

年伝聞ニ拠ル

山口縣治豈

李王殿下ハ丙寅上京ニ際シ内地沿道付近ハ勿論ト雖モ官吏及付近ノ郡ノ同盟長等ハ既ニ人ヲ送迎シ宿泊地ハ民間ノ送迎モ為シ様ニ致シタキ（学校生徒ノ送迎ハ官吏ノ任意タルヘシ）ニツキ右ノ趣旨ヲ以テ実行ノ係ノ者ヘ丙寅文部大臣ヲ配セシメラシタシ

内閣

山口縣治事ヘハ文部大臣ヨリ直接伝達シ置クヘシ

大正六年六月六日

内務大臣秘書官

李王殿下御東上送迎方ニ付別紙
写ヲ通申越有之候ニ付可然御
取計相成度尚ホ御旅行日程本日内務官僚帰京ノ上詳報ス可キ為念
申進ス

別紙写

大正六年六月六日

水野内務次官殿　児玉内閣書記官長

別紙写ヲ通ス　山縣政務総監ヨリ

申出有之ニ付ス可然取計相成度

電報譯

六月五日午前十府三十五分京城発
午后四時三十分着

山縣政務総監

李王殿下御東上ニ際シ内地沿道ニ付近ハ少ナクトモ知事及付近ノ郡ノ團體長等ハ成ルヘク送迎シ御宿泊地ハ民間側ノ送迎モ有之様致シタキ（特ニ学校生徒ノ送迎ハ知事ノ任意ニ）ニツキ右ノ趣旨ヨリテ関係ノ者ヘ交渉相當手配セシメラレタシ

大正六年五月廿六日

内閣書記官長

法制局長官
神社局長
地方局長
警保局長
土木局長
測量局長

三、一〇六

五月廿六日施行

官紀振肅ノ為本月廿五日官報公布
内閣訓令第一號ヲ以テ官吏ノ體ム
ヘキ常經ニ關シ懇切訓諭ス
就テハ各自服膺敢テ愆
ルコトナキヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ
内閣總理大臣ノ趣旨ノ存スル所
部下官吏ノ一般ニ充分徹底致
候樣尚内示達方ニ出取計ハルヘシ
尚部内公吏ニ對シテモ官吏同樣

大正六年五月廿六日

秘書官

大臣

次官

神社局長

地方局長

警保局長

土木局長

衛生局長

三三 一〇六

五月廿六日 施行

官紀振肅ノ為本月廿五日官報公布内閣訓令第一號ヲ以テ官吏ノ履ムヘキ常經ニ關シ懇切訓諭ス成從ニ就テハ各自服膺敢テ懲ルコトナキヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ内閣總理大臣ノ趣旨ノ存スル所部下官吏ノ般ニ充分徹底致候樣内務大臣ヨリ達方ニ出取計ハルヘシ尚部内公吏ニ對シテモ官吏同樣

案

めくれず

国立公文書館 National Archives of Japan

旅訓令ノ趣旨徹底致候様示達
方可致取計ハルヘシ
右内訓ス

大臣

樣太庶務課宛
北海道庶務課
警察課給與
庶務課宛

大正六年一五月二十五日

内閣総理大臣伯爵寺内正毅

内務大臣男爵後藤新平殿

通牒

官紀振肅ノ為本日官報ヲ以テ別紙ノ通内閣訓令公布致候ニ付テハ本大臣ノ趣旨ニ存ズル所充分徹底致候様可然御示達相成度尚御配意相煩度候

内閣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

原本不明瞭

裏面白紙

内閣訓令第一號

内閣組織以來政務ノ實蹟ニ徵シ官吏ノ氣風ヲ察スルニ官紀ノ弛張ニ關シテ遺憾ナキ能ハス特ニ意ヲ致ササルヘカラサルモノアルヲ思フ蓋是レ時運ノ然ラシムル所ナリト雖内閣ノ更迭頻次ニシテ官吏ヲシテ歸趨ニ惑ハシムルコトアルモ亦其ノ一因タラスムハアラス今ヤ歐洲戰役ノ影響全世界ニ波及シ其ノ關繫スル所獨政治上經濟上ニ止マラス思想上風教上ニ渉リテ誠ニ恐ルヘキモノアリ是ノ時ニ當リ政務ノ職司ニ在ル者ハ須ク立國ノ大本ニ鑑ミ國體ノ尊崇スヘキヲ惟ヒ國情ヲ異ニスル海外ノ事例ニ羈サレスシテ帝國憲法ノ根義ニ攷ヘ自重シテ適從スル所ヲ愆ラス紀律ヲ守リ一意奉公至誠君國ニ竭シ以テ國民ノ儀表タルヘシ官吏ノ官ク履ムヘキ常經ニ至リテハ曾テ屢訓諭スル所アリト雖本大臣ハ内外ノ情勢ニ顧ミ官府ノ實狀ニ稽ヘ茲ニ重ネテ訓諭スル所アラムトス

一官吏タルノ本分ヲ恪守スル事

凡ソ官吏ハ　天皇ノ任免シ給フ所ニシテ榮譽之ニ尚フルナシ宜ク　聖旨ヲ奉體シ法令ヲ遵守シテ職域ヲ踰エス事功ヲ擧ケテ責任ヲ全クシ上司ニ對シテハ服從ノ義務ヲ守リテ能ク其ノ意衷ヲ盡シ造次　天皇ノ官吏タルニ念到シ報效ノ精神ヲ以テ盡忠匪躬ノ節ヲ致スヘシ

一官吏タルノ品位ヲ保ツ事

清廉鯁潔ニシテ且威嚴ノ犯スヘカラサルモノアルハ官吏ノ品位ヲ支持スル所以ナリ近時官吏ニシテ收賄横領其ノ他破廉恥ノ罪過ニ問ハレテ刑辟ニ觸ルル者ナキニ非ス亦以テ官紀頽廢ノ一端ヲトスルニ足ル是レ最戒ムヘキ所タリ殊ニ擧世將ニ輕佻奢侈ノ風ニ趨ラム狀アルニ方リ官吏タル者宜ク[illegible]ミ常ニ浮華ヲ戒メテ儉素[illegible]スルノ意氣アルヘシ

[illegible]毅然トシテ守ル所アル利ヲ見テ移ラサル[illegible]敬自ラ處リテ能ク威嚴ヲ保チ以テ社會風[illegible]ニ就ク事

[illegible]忙ヲ加フ疎漫曠怠ヲ容スヘ[illegible]ヘ平素事務ヲ處理スルコト忠實ニシテ且敏[illegible]ヘサルヘカラス抑繁ヲ去リ簡ニ就[illegible]決行シテ凝滯スルコトナク勤勉職ヲ奉シ懇切人ヲ遇スルハ則上意ヲ下達シ下情ヲ上達スル所以ナリ而テ豐思熟慮能ク審議ヲ遂ケ事ヲ苟モスルコトアルヘカラス既ニ上官ノ裁決ヲ仰キ後ニ至リテ更正ヲ請フカ如キハ斷シテ之ヲ避ケサルヘカラス

一公私ノ別ヲ明ニスル事

公務ヲ處理スルニハ私心ヲ挾ムヘカラス若公私ヲ混同シテ剖決ヲ二三ニシ一身ノ利害ヲ顧ミテ是非ヲ誤リ徒ニ一部ノ歡心ヲ求メテ其ノ好ム所ニ偏シ情實ニ泥ミ毀譽ニ拘ルコトアルニ至リテハ正邪ノ岐ルル所之ヲ假借スルコトヲ得ス宜ク職司ノ重スヘキヲ思ヒ責任ノ輕カラサルニ省ミ服務規律ヲ嚴守シ中正不偏心ヲ虛クシテ時流ノ外ニ立ツヘシ

一秩序ヲ正シクシ言議ヲ愼ミ機密ヲ保ツ事

官廳ノ組織ハ秩序アリテ始メテ統一ヲ見ル機密ノ外間ニ漏ルルモ亦秩序ノ紊ルルニ因ル抑秩序ハ人ニ由リテ之ヲ保タル而テ官吏ノ秩序ヲ保タムト欲セハ則先ツ銓敍ヲ愼ミテ尚恪勤ヲ勸メ放曠ヲ戒ムヘシ先任者ハ規矩ヲ示シテ後進者ヲ率ヰ後進者ハ準繩ヲ守リテ先任者ニ隨ヒ上下禮節ヲ尊ミテ相提撕シ協心戮力其ノ間實務ヲ習熟シテ專ラ治績ヲ擧クルコトニ勉メサルヘカラス萬一僚屬相嫉視シ排擠之レ事トスルニ至ラハ秩序忽ニシテ斁ルヘシ且言議ヲ愼ミ機密ノ漏洩ヲ防ク能ハサルニ於テハ爲ニ紛糾ヲ釀シ事ノ重大ナルニ至リテハ施テ累ヲ國交ニ及ホスノ虞ナキニ非ス宜ク深ク互ニ戒愼シ井然タル秩序ノ下ニ政務ノ運用ヲ圓滑ニスヘシ

大正六年五月二十五日

内閣總理大臣　伯爵　寺内正毅

国立公文書館
National Archives of Japan

大正六年五月廿五日

秘書官

大臣

次官

内訓案

官紀振肅ノ為本月廿五日官報ヲ以テ内閣訓令公布セラレ候ニ就テハ各自服膺シ敢テ違ルコトナキヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ内閣總理大臣ノ趣旨ノ存スル所部下官吏一般ニ充分徹底致候様示達方特ニ可然取計ハルヘシ

右内訓ス

年月日

内務大臣

樺太庁長官

北海道庁長官

警視総監

府知事

縣知事

大正六年八月廿五日

大臣

次官

文書課長

官計課長

地理課長

神社局長

地方局長

警保局長

土木局長

衛生局長

別紙内閣法制局通牒 朝鮮、台湾、関東州、樺太ニ交渉ヲ要スルモノハ総督府ヲ経由スルノ件

倍

三、一〇七

拓第八四號

大正六年八月二十四日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅

内務大臣男爵後藤新平殿

今回内閣總理大臣管理ノ下ニ拓殖局設置相成候ニ付テハ自今貴省ヨリ朝鮮總督府臺灣總督府關東都督府樺太廳ニ交渉ヲ要スヘキモノハ總テ拓殖局ヲ經由スルコトニ致度此段及通牒候也

拓殖局

甲六三七 六八五

大正七年五月廿九日　神戸支

次官

案

通牒

北海道庶長官　次官

府縣知事

別紙通閣議決定ノ旨通牒ス

併テ及移牒候也

（別紙通牒写）

五三十

一四一〇八

内甲 四五号

大正七年五月二十日

内閣書記官長伯爵兒玉秀雄

内務次官小橋一太殿

通牒

本日左ノ通閣議決定相成候

特別任用ノ北海道支廳長、島司又ハ郡長ハ高等官五等トシテ在職スルコト五年以上ニ非サレハ之ヲ高等官四等ニ陞敘セサルコト

但シ高等官五等ノ他ノ官ノ在職年數ヲ通算スルコト

内閣

内閣甲 二二〇
大正七年六月四日
書課 雑 第一〇〇號
97

二五、一〇九

秘書官

次官

臣

内閣官房 二〇号

大正七年六月四日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅

内務大臣法学博士水野錬太郎殿

通牒

本日軍需局職員ニ對シ別紙ノ通訓示致候

内閣

秘書課 雑 七年六月九日 一〇〇號

97

裏面白紙

原本不明瞭

国立公文書館
National Archives of Japan

地方局 受 172 號 6.27

大正七年六月六日

大臣

次官

地方長官會同ノ際内閣総理大臣ノ訓示ニ付別紙ノ通内務書記官長ヲシテ依命通牒ス

追而貴管下ノ関係方ニ伝ヘ御了知ヲ

文書課長

内務書記官長

地方局長

都市計畫課長

監察官

神社局長

地方局長

警保局長

土木局長

内務技監

衛生局長

明治神宮造営局長

各課長

各課長

各課長

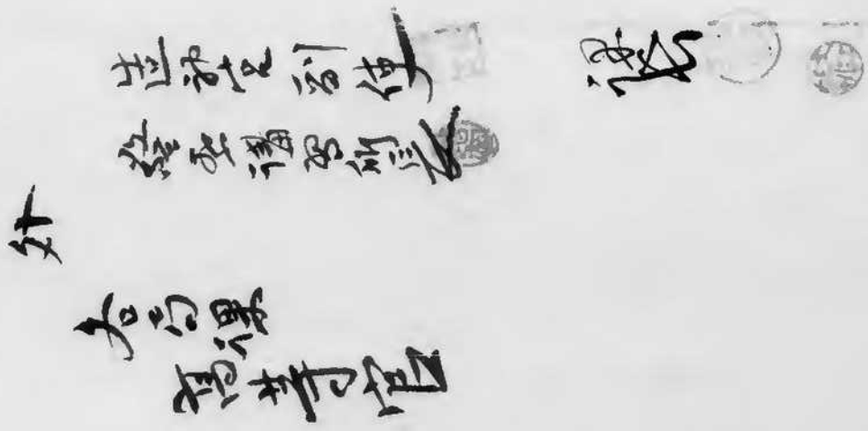
各課長

各課長

衛生 大正七年六月廿四日受 第 号
明治神宮造営局 大正七年七月三日 第七九号
大正七年六月二十八日
明治神宮 大正七年七月九日受 合 二号
合七二六十一
七月五日 合志八

国立公文書館 National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan



内務省 図書 14 7. 6. 3

大正七年六月一日

兒玉内閣書記官長

内務内務次官殿

依命通牒

五月十四日地方長官會同ノ際内閣總理大臣ヨリ別紙ノ通訓示相成候處貴方関係ノ事項ニ付テハ右訓示ノ趣旨徹底致ス様可然御取計相成度

七六三 雜九九

国立公文書館 National Archives of Japan

大正七年五月十四日

内閣總理大臣訓示

112

国立公文書館
National Archives of Japan

諸君、現內閣成立以來茲ニ一年有半ヲ經過シマシタ、此ノ間ニ於テ內外庶政ノ匡正略、其ノ目的ヲ達シ、今後ハ議會ノ協贊ヲ經タル凡百ノ施設ニ著手スルノ順序トナリマシタ、今ヤ時局ハ愈〻紛糾シテ極東ノ地將ニ多事ナラムトスルノ時ニ當リ、本大臣ハ大政輔弼ノ責任益〻重大ナルヲ思ヒ衷心憂懼ニ堪ヘサル次第デアリマス、茲ニ第四十議會閉會ノ後ニ於テ諸君ノ會同ヲ煩ハシ、政府ノ所見ヲ披瀝シテ相共ニ施政上ノ商議ヲナスハ、本大臣ノ最本懷トスル所デアリマス

此ノ時局ニ際シ上下心ヲ一ニシテ質實勤儉、奢侈ヲ禁シ荒怠ヲ戒メ、以テ將來ニ備フヘキハ勿論ノ事デアリマスカ、近時世俗漸ク奢侈ニ流レ浮華ニ浸潤スルノ傾向アルハ、國家ノ爲洵ニ寒心ニ堪ヘサル所デアリマス、政府ハ夙ニ官紀振肅ノ必要ヲ認メ、客歲五月訓令ヲ出シテ嚴飭スル所アルニモ拘ラス、瀆職ノ罪辟、收賄ノ疑獄等續出スルコトハ、本大臣ノ最遺憾トスル所デアリマス、是レ畢竟訓令ノ趣旨未タ下僚ニ徹底セス、上司ノ監督統率其ノ宜キヲ得サルカ爲デアリマス、凡ソ官吏タル者ハ各自其ノ本分ヲ恪守シテ品位ヲ保維シ、言議ヲ愼ミテ機密ヲ守リ、克ク公私ノ別ヲ明ニシテ苞苴請託ヲ峻拒シ、以テ吏道ヲ肅清セネハナリマセ

ヌ、冠婚葬祭其ノ他季節ノ贈答ハ、多年ノ習慣ニシテ必スシモ咎ムヘキニアラサレトモ、親戚故舊ノ間柄ニアラスシテ、例ヘハ官吏ト商民トノ間ニ行ハルル贈答ノ如キハ、往々請託ノ禍因トナルノ虞アルヲ以テ之ヲ嚴禁セネハナリマセヌ、諸君ハ能ク此ノ主旨ヲ體シ一層官紀振肅ノ實ヲ擧ケラレムコトヲ切望致シマス、又近來經濟界ノ好調ナルニ伴ヒ、民間ノ風紀モ亦著シク弛廢スルノ傾向カアリマス、諺ニ言フカ如ク、上ノ爲ス所下之ニ倣フノカ東洋古來ノ常習デアリマスカラ、之ヲ肅清スルニハ、官吏タルモノ自ラ先ツ準繩トナリ規矩トナツテ勤儉ノ美風ヲ作興シ、驕奢ノ弊風ヲ儆戒スルコトカ最緊急ナル政道デアリマス

賞罰ヲ明ニスルハ官場ヲ廓清シ、民風ヲ振張シ、社會ノ秩序ヲ維持シ、國家ノ靖寧ヲ確保スルノ基礎デアリマス、政府ハ此ノ方針ヲ以テ、至誠職ニ勵ミ廉潔己レヲ持スルノ循吏ニ對シテハ優遇ノ途ヲ講シ、公利公益ヲ圖リ又ハ孝順節義ノ德行アルモノニ對シテハ其ノ名譽ヲ表彰シ、以テ國民道德ヲ進メ時弊ヲ匡濟セムコトヲ期シツツアル次第デアリマス、諸君モ亦此ノ意ヲ體シ、夫々適當ナル措置ヲ執ラレムコトヲ希望シマス

大正七年度ノ財政經畫ヲ立ツルニ方リ、政府ハ世界ノ大勢ニ鑑ミテ國防ノ充實ヲ豫算ノ骨子トナシ、陸軍ニ於テハ戰鬪力ノ充實ヲ計リ、海軍ニ於テハ艦艇ノ增加ヲ期シ、之カ財源トシテハ、明年度以降國債償還額五千萬圓ヲ三千萬圓ニ減額シテ其ノ一部ニ供シ、自餘ノ不足額ヲ本年度以降ノ增稅ニ依リテ補塡シ、以テ國家ノ急需ニ應スルコトト致シマシタ、所謂增稅トハ所得稅及酒稅ノ增率ト、新ニ制定シタル戰時利得稅トデアリマス、之ヲ賦課スルニ付テハ、民力ノ負擔ニ顧ミテ帝國經濟ノ發展ヲ妨ケサル範圍ニ止メ、以テ稅源ノ涵養ニ勉メタル次第デアリマス、尙政府ハ此ノ典國ノ機運ニ際シ我經濟界ノ發展ニ資スルカ爲、中央銀行其ノ他特殊銀行ノ機能ヲ發揮シテ內外金融ノ圓滑ヲ圖リ、以テ國際間ニ於ケル帝國ノ地位ヲ向上スルニ努力シテ居ル次第デアリマス

國防ノ充實ハ刻下ニ於ケル帝國自衞ノ緊急問題デアリマシテ、之ヲ帝國ノ財政ニ顧ミ工場ノ能力ニ鑑ミタル次第デアリマス、其ノ他今期議會ノ協贊ヲ經タル徵兵令ノ改正ハ兵役義務ノ均等ヲ圖リ以テ國民皆兵ノ趣旨ヲ徹底シ、軍需工業ノ動員法ハ戰時ニ際シ迅速且確實ニ軍需品ヲ整備補給スルヲ得ルノ道ヲ開キ、

国立公文書館
National Archives of Japan

軍用自動車補助法ノ制定ハ政府ノ補助奬勵ニ依リテ民間ニ於ケル製造力及使用車數ヲ增進シ、兼テ戰時ニ於ケル軍用輸送機關ヲ完備セムトスル次第テアリマシテ、孰レモ皆國防充實ト相倚リ相待ツ所ノ法令テアリマス、諸君ハ機會アル毎ニ能ク法令ノ趣旨ヲ一般國民ニ知悉セシメラレムコトヲ希望シマス

我國敎育ノ根本ハ忠孝ヲ經緯トシ堅實ナル國民ヲ養成シ、以テ國家ノ隆昌ヲ期セムトスルノテアリマス、殊ニ現下ノ情勢ニ鑑ミテ國民ノ意志ヲ堅剛ニシ元氣ヲ作興シ、以テ至誠奉公ノ念慮ヲ旺盛ナラシムルノ極メテ切實ナルモノアルヲ認メマシテ、新ニ臨時敎育會議ヲ設ケ重要ナル案件ヲ調査審議セシメ、之カ成案ニ基キ敎育制度ノ改善竝敎育ノ振興ヲ圖ラムトスル次第テアリマス、政府ハ此ノ敎育制度ノ革新ヲ策スルト共ニ、敎育施設ノ擴張ヲ圖ルノ緊要ナルヲ認メテ高等專門學校ノ增設ヲ畫シ、全國有爲ノ靑年ニ對シテ新ニ就學ノ門戶ヲ開キ、又義務敎育費ノ一部ヲ國庫ノ負擔ニ移シ小學敎員優遇ノ途ヲ啓キマシタ、諸君ハ國民敎育ノ實際ニ當レル小學敎員ノ改善ハ、一般敎育上最重大ナル關係アル所以ヲ考察シ、指導監督其ノ宜キヲ制シ、敎育ノ普及上遺憾ナキヲ期セラレムコトヲ望ミマス

多年ノ懸案タリシ國勢調査ハ本年ヨリ之カ準備ニ著手シ、大正九年ヲ期シ第一回調査ヲ實行スルノ計劃テアリマス、本事業ハ主トシテ人口及職業ニ關スル事項ヲ精査シ、將來ニ於ケル諸般施設ノ標準資料ニ供セムトスルモノテアリマス、而シテ之カ實査ハ概ネ地方官憲ノ助力ニ待ツヘキヲ以テ、諸君ハ調査ノ精確ヲ期スルカ爲周到ナル注意ヲ加ヘラレムコトヲ望ムノテアリマス、尙本年末ハ恰モ定期人口靜態調査ノ期ニ當ルカ故ニ、市町村役場ヲシテ豫メ公簿ヲ是正セシメ、以テ重複脫漏等ノ遺算ナキヲ期セラレムコトヲ希望シマス

產業ノ奬勵ハ國防ノ充實ト相待テ政府ノ最緊切トスル所テアリマス、自給自足以テ經濟上ノ獨立ヲ期スルコトハ國家存立ノ根本義テアリマス、此ノ趣旨ヲ以テ政府ハ夙ニ工業原料タル鐵、石炭、棉花、羊毛等ノ自給方法ヲ講シ、化學工業ノ發達ヲ圖ルト同時ニ、努メテ運輸交通ノ利便ヲ進メ、水力電氣ノ調査ヲ完ウシ、極力民間商工業ノ發達ヲ庶幾スル次第テアリマス、尙政府ハ時局ノ影響ヲ受ケテ船腹ノ缺乏ヲ訴フルノ狀態ニ鑑ミ、綿キニ船舶管理令ヲ制定シテ之カ調節ヲ圖リ、

国立公文書館
National Archives of Japan

且陸上ニ於ケル鐵道ノ輸送力ヲ極度ニ增進シテ、國內貨物ノ集散ヲ迅速ナラシメツツアル有樣デアリマス、此ノ場合諸君ニ於テモ亦民間當業者ヲ指導シテ、成ルヘク交通機關ヲ經濟的ニ利用セシメラレムコトヲ希望致シマス

物價ノ昂騰ハ近時益〻甚シキヲ加ヘ、就中米價ノ暴騰ハ國民ノ生活上ニ至大ナル困難ヲ及ホサムトスルノ狀況デアリマス、政府ハ客秋以降專ラ人爲的昂騰ヲ防止スルニ努メ、又近クハ外米管理ノ制度ヲ設ケテ之カ調節ノ目的ヲ達成スルコトヲ期シテ居リマス、原來物價ノ騰貴ハ時局ノ影響、事業ノ勃興ニ基ク自然ノ趨勢デアリマスカ、乍併昂騰度ヲ超ヘテ底止スル所ナケレハ延テ經濟上ノ調和ヲ破リ、地方產業ノ萎靡ヲ來タスノ虞ナシトモ限リマセヌ、諸君ハ時局ノ進展ニ伴ヒ愈〻此ノ傾向ノ甚シキモノアルヲ想ヒ、中央政府ノ施設ト相待テ之カ調節ニ努力セラレムコトヲ希望致シマス

國民思想ニ就テハ既ニ昨年諸君ニ對シテ切々注意ヲ促シ、諸君モ亦著々之ヲ善導スルノ方法ヲ講セラルルコトト確信スル次第デアリマスカ、時局ノ推移ト共ニ東漸シ來ル所ノ新思潮ハ、必スシモ我國體ニ合致シ我國民ヲ善導スルモノノ

ミトハ限リマセヌ、我帝國ノ國是ハ廣ク智識ヲ海外ニ求メテ長ヲ取リ短ヲ補ヒ、能ク世界ノ文明ヲ消化シテ　皇運ノ隆昌ヲ圖ルニ在ルコトハ維新ノ　詔勅炳トシテ日星ノ如クデアリマス、從テ我國臣民ノ國家ニ對スル忠誠ハ古今ヲ通シテ決シテ渝ルコトハアリマセヌカ、世人ノ所謂新思想ニ就テハ、我國體ニ鑑ミテ愼重ニ考慮ヲ要スヘキモノナキニアラスト思ヒマス、殊ニ經濟界ノ發展ニ伴フ資產家ト勞働者トノ貧富ノ懸隔甚シキ場合、若ハ物價騰貴ニ伴フ生活難ノ多大ナル場合ニ於テハ、知ラス識ラス國民思想ノ變化ヲ來スモノデアリマス、此ノ故ニ一般宗敎心ノ普及、國民道德ノ涵養、勤儉貯蓄ノ奬勵、濟生救民ノ施設等ハ刻下ノ急務ナリト認メマシテ、之カ企劃經營ニ努力シツツアル次第デアリマス、諸君モ亦此ノ點ニ留意シ、勸奬其ノ宜キヲ得テ穩健ナル國民思想ヲ涵養セラレムコトヲ望ミマス

刻下ノ國際時局ハ益〻重大ヲ加ヘ、現ニ西歐戰場ニ於テハ決戰的戰鬪ヲ繼續シツツアリマス、露國國內ノ紊亂ハ今猶安定スルニ至ラス、其ノ影響ハ延テ極東ニ及ホサムトスルノ狀勢デアリマス、支那ハ帝國善隣ノ友邦デアリマシテ、極東ノ平

106

国立公文書館
National Archives of Japan

和ハ兩國ノ親善ニ依リテ初メテ完キヲ得ヘク、其ノ利害休戚ノ關スル所之ヨリ大ナルハナイノデアリマスカラ、政府ハ速ニ支那内政ノ統一セラレムコトヲ希望シテ居ル次第デアリマス、然ルニ近時往々ニシテ帝國ト友邦トノ交情ヲ阻隔シ、若ハ日米日支ノ隣交ヲ離間スルカ如キノ蜚語風説荐リニ行ハレ、動モスレハ地方人心ヲ惑ハサムトスルノ傾向カアリマスカ、斯ノ如キハ國交上最戒心ヲ加フヘキ事ト信シマス、本大臣ハ此ノ機會ニ於テ、帝國ト聯合與國トノ協調ハ益〻堅實ニシテ、倶ニ共ニ最終ノ捷利ヲ希望スルモノナルコトヲ聲明シ、尚極東ノ平和ヲ維持スル爲ニハ、帝國ノ責任ハ益〻重大ナルコトヲ自信シツツアル次第デアリマス

以上ハ本大臣カ諸君ニ期待スル施政上ノ大綱デアリマス、若夫レ各省ニ於ケル詳細ナル事項ニ至テハ、更ニ主務大臣ヨリ夫〻訓示セラルルコトト信シマス、諸君ハ能ク政府意思ノ存スル所ヲ諒トシ、中央地方相待テ施政一軌ニ出テ、精勵努力誓テ其ノ效果ヲ擧ケラレムコトヲ切望致シマス

国立公文書館
National Archives of Japan

大正七年六月七日

大臣 [illegible]

次官 [illegible]

秘書官 [illegible]

通牒案

各 土木出張所長
衛生試験所長 宛
神宮大宮司

過般地方長官會同ノ際内閣総理大臣ノ訓示ニ付別紙ノ通内閣書記官長ヨリ依命通牒有之候ニ付為御心得及後牒候

追テ訓示ノ趣旨徹底致ス様部下高等官ヘ回示方ヲ遂ケ計相成度

候

大正七年六月十四日

御務官小橋一太

通報

陸海軍長官宛

別紙ノ通書記官長ヨリ依命

通報有之候ニ付為御心得及移牒候

追テ別紙ノ趣旨ニ基キ適當ノ御部下高等

官ヲ御示シ相成度可然

109

原本不明瞭

国立公文書館
National Archives of Japan

大正七年七月四日

通達

次官

立書課長
會計課長
地理課長
都市計畫課長
神社局長
地方局長
警保局長

土木局長
衛生局長

殖民地官廳ニ交渉ヲ要スル場合ノ
文書經由ニ關スル件

右別紙供回覽也

衛生 第六八号 大正一年七月十九日受 文七七三
大正七年七月五日受 第一〇五号 文七七四
合七七四 文七七一二三
都市計畫課 合七七五
松 181
110

秘 七三七

内閣 17 號

七巳 合四〇

文書合課 七年七月四日 一七号

大正七年七月三日

拓殖局長官 有松英義

内務大臣法學博士水野錬太郎殿

殖民地ニ関シ交渉ヲ要スル場合ノ
文書経由ニ関スル件

本件ニ関シテハ客年八月二十四日附拓
秘第八五號ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ通牒
相成候處今般事務ノ簡捷敏活ヲ圖ル
為左記事項ニ限リ當局経由ニ及ハサル
コトト相成候條御了知相成度此段依
命及通牒候也

拓殖局

記

一、履歴事項ニ関スル照覆
一、諸物品ノ送付ニ関スル件
一、新聞紙並出版物行政處分ニ関スル件
追テ右新聞紙等行政處分ニ関スル件ハ從来
通當局ヘ御通報相煩度申添候

東京帝國大学 (千行余)

大正七年一月廿六日 秘書官

大臣

次官

年月日 通牒案

警視総監 秘書官
警視庁 道府県長官
各庁長官 宛

完了通

制服ニ佩用スルコトヲ得ル略綬ノ佩用方ニ付別紙写ノ通通牒ス

追而貴庁ニ於テモ之ニ準ジ取扱ハレタキ旨

112

内務大臣

発第八六一號

大正七年十月二十四日

賞勲局總裁侯爵兒玉秀雄

内務大臣床次竹二郎殿

通牒

本年九月十七日内閣告示第四號ヲ以テ定メラレタル制服ニ佩用スルコトヲ得ル略綬ノ佩用方ニ付疑義ヲ生スル向モ可有之ニ付左記ノ通一定致度

賞勲局

七十五

裏面白紙

記

一 略綬ハ勲章、記章、褒章又ハ略章ト同時ニ佩用スルコトナシ
外國ノ勲章、記章、褒章又ハ略章ニ付亦同シ

二 略綬二種以上ニ及フトキハ時宜ニ依リ其ノ一種若シクハ數種ヲ佩用スルコトヲ得但シ勲章ノ略綬ヲ佩ビタル上ノ略綬ヲ佩用スルコトヲ得ス

三 數種ノ略綬ヲ聯結佩用スル場合ニハ其ノ一部ニ於テ之ヲ重ネルコトヲ得又一列ニ佩用スルコト能ハサルトキハ二列以上ニ及フコトヲ得

賞勲局

114

裏面白紙

写

内閣告示第四号

勲章記章又ハ褒章タル有ル者ハ大礼服及正装ニ際シテハ其ノ所用ノ節各自左ノ制式ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得略綬二種以上ニ及フトキハ本章佩用ノ順序ニ従ヒ聯結佩用スルモノトス

一 綬色　本綬ニ同シ但シ無綬又ハ大綬ノ
一 綬幅　本綬ニ同シ

勲章ニ在リテハ功三級勲三等ノ綬幅ニ同シ

一 綬長　曲尺三分

大正七年九月十七日

内閣総理大臣伯爵寺内正毅

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

七十共

内務大臣原

内務大臣床次竹二郎殿

七土共 二九

七土共 合七七九

四つ八

合一一六三

776

116

○刑事事件ニ関シ休職ヲ命セラレタル者ノ免官ニ関スル件

刑事事件ニ関シ告訴若ハ告発セラレタル文官分限令第十一條第一項第二號又ハ第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル場合ニハ後日當該刑事事件ノ判決確定ニ至ルマテハ本人ヨリ辞表ヲ提出スルモ依願免官ノ手續ヲ為ササルコトニ閣議決定相成候

下

776

七土共
二九

七土共
合七七九

天七土二九
四ノ八

七土二九
会一二三

内務大臣原敬

内閣総理大臣

内務大臣床次竹二郎殿

地方局長
警保局長
土木局長
衛生局長
監察官

通牒

刑事事件ニ関シ休職ヲ命セラレタル者ノ免官ニ関スル件

○刑事事件ニ関シ休職ヲ命セラレタル者ノ免官ニ関スル件

二九、一一三

刑事事件ニ関シ告訴若ハ告発セラレタル官吏ハ分限令第十一條第一項第二號又ハ第四號ニ依リ休職ヲ命ゼラレタル場合ニハ後日當該刑事事件ノ判決確定ニ至ルマデハ本人ヨリ辞表ヲ提出スルモ依願免官ノ手續ヲ為サザルコトニ閣議決定相成候

116

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

大正七年十月廿六日

内閣官報局

秘書官

乙一

安永

警視庁

北海道庁

府県

内務

刑事事件ニ関シ休戦ヲ命セラレタル

者ノ免官ニ関スル件ニ付別紙ノ通

閣議決定ノ旨通牒相成度

移牒候也

十花

二一〇 一一四

秘

丙 二九〇

大正八年三月一日

賞勲局総裁伯爵 [illegible]

内務大臣 床次竹二郎殿

通牒

勲功調査及貴族院並衆議院議員勲章ノ件別紙通
改正又ハ創定セラレ候

賞勲局

118

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

○敘勳內則改正（大正八年二月二十五日裁可）

敘勳內則中左ノ通改正セラル

第十四條中「二十年」ヲ「十七年」ニ改ム

第十五條　勳三等以下ノ帶勳者親任官ト爲リタルトキハ滿一年以上ニシテ勳二等マテ累進スルコトヲ得

勳四等以下ノ帶勳者高等官一等ト爲リタルトキハ其親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ滿五月以上ニシテ勳五等、滿六月以上ニシテ勳四等、滿一年以上ニシテ勳三等マテ、其他ハ滿六月以上ニシテ勳五等、滿六月以上ニシテ勳四等、滿一年半以上ニシテ勳三等マテ累進スルコトヲ得

勳五等以下ノ帶勳者高等官二等ト爲リタルトキハ滿六月以上ニシテ勳四等

119

裏面あり

国立公文書館
National Archives of Japan

マテ累進スルコトヲ得

勳七等以下ノ帶勳者高等官一等又ハ二等ト爲リタルトキハ第十三條第一項第十二條第八項ノ實期十分一以上、其奏任官ト爲リタルトキハ同五分一以上ニシテ勳六等マテ累進スルコトヲ得

附表中判任官一等ノ行「二十年」ヲ「十七年」ニ、同二等ノ行「二十一年」ヲ「十八年」ニ、同三等ノ行「二十二年」ヲ「十九年」ニ、同四等ノ行「二十三年」ヲ「二十年」ニ改ノ同五等及六等ノ行ヲ削ル

国立公文書館
National Archives of Japan

○貴族院竝衆議院議員敍勳ノ件（大正八年二月十二日裁定）

一　兩院議長副議長竝議員ニハ敍勳内則中官吏ノ定期敍勳ニ關スル規定ヲ準用シ其ノ取扱ハ左ノ各項ニ依ルコト

二　兩院議長ハ親任官ト同一ニ取扱フコト

三　兩院副議長ハ高等官一等ト同一ニ取扱フコト

四　兩院議員ハ名譽官タル高等官二等ト同一ニ取扱フコト

○右取扱例（大正八年二月二十五日裁可）

一　議員ノ在職年月ハ官吏ノ在職年月ト通算スルコト

一　大正八年二月十二日前ニ於ケル議員ノ在職年月ヲモ計算スルコト但シ前敍アル者ハ前敍後ノ年月ニ限ル

120

裏面あり

国立公文書館
National Archives of Japan

一　大正八年二月十二日前ニ議員タリシ者ノ在職年月ハ將來議員又ハ官吏ト爲リタルトキ通算スルコト但シ前敍アル者ハ前敍後ノ年月ニ限ル

国立公文書館
National Archives of Japan

大正八年三月廿七日　秘書課

次官高

年　月　日

通牒案

次官

警視総監

農商務省

内務省

宮内省

内務大臣

宮内大臣

通牒

叙勲及賞揚ノ件

別紙

（別紙）

法制局二提出ノ事

大正八年一月九日 秘書官

次官

年月日 通牒案

警視総監 次官

北海道庁長官

府県知事

内閣書記官長

各省大臣

道庁長官

沖縄県知事

関東長官

朝鮮総督

樺太庁長官

三一一五

一十三

這神宮副使
明治神宮造営長官
神社局長

右ノ趣貴官ニ及通牒候也

貳一一六
乙第一號

内閣書記官長心得

大正七年十二月二十八日

内閣書記官長

小橋内務次官殿

標題ノ件

本月十日皇室令第七號ヲ以テ皇室警察官吏ノ恩給令ニ依リ退隠料ヲ受クル者又ハ其ノ遺族ニ公布相成候処右恩給令ニ依リ退隠料ヲ受クル者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ与フベキ者俸給ヲ受クル利益待遇以上ノ官職ニ就キタル場合ニ於テハ其ノ俸給

恩給令ニ依リ退隠料ヲ受クル者又ハ受クベキ者ヲ俸給ヲ受クル利益待遇以上ノ官職ニ採用シタル場合ニ於テハ其ノ俸給額及恩給令ニ依リ退隠料ヲ受クル者又ハ受クベキ者ヲ俸給ヲ受クル利益待遇以上ノ官職ニ採用シタル場合ニ於テハ其ノ俸給額及恩給ノ増減シタルトキハ其ノ額及期日ヲ宮内大臣ニ通知セラルルコトニ相成候ニ付テハ該官吏側受領ニ通牒相成度旨今般宮内大臣ヨリ照会有之候ニ付貴方ニ於テ御通牒方取計相成度

恩給月額ニ退隠料月額ヲ合シ超過スルトキニ限リ其ノ超過額ニ限度ヲ超過スルトキハ退隠料ノ給與ヲ停止セラルルコトニ相成候ニ付テハ該

三二一一六

内務六五五號

大正八年五月二十三日

賞勲局総裁高島鞆之助

内務大臣床次竹二郎殿

通牒

勲四等中村弘道ニ授与セラレ候

賞勲局

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

敍勳內則中左ノ通改正セラル

第四條中「勳一等旭日章以下」ノ下ニ「及寶冠章」ヲ加フ

第十六條中「旭日章」ノ下ニ「又ハ寶冠章」ヲ加フ

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正八年五月廿六日　秘書官

次官

年月日

通牒案

秘書官

岩手縣知事宛

北海道廳長官

府縣知事

靖國神社宮司

別格官幣社宮司

神宮大宮司

宛

通牒

叙勲内則中改正ノ件別紙写ノ通今般決定相成候條為念此段及通牒候也

三三、一一七

大正八年七月二十二日

次官　秘書官

局議案一六一

通牒案

官庁職員ノ服装ニ関シ内閣書記官長ヨリ
左記ノ通リ通知有之候ニ付此段及移牒候也

年　月　日

秘書官

官房各課長
各局長
造神宮副使
明治神宮造営局長
監察官
警察講習所長
各土木出張所長
各衛生試験所長
庁府県長官知事宛

左記　記入ノ丁

宮事

天正八年七月十九日

高橋内閣書記官長

小橋内務次官殿

今般次官會議ニ於テ宮廳職員ノ服裝ニ関スル件左記通申合セ候

記

宮廳職員ノ服裝ニ関スル件

祝書 八年七月 乙第八八號

祝典ニ際シテ用ヰル場合ニ於テハ

勲一等ニ限リ背廣又ハ紋付羽織袴ヲ用ヰル

ヨルコトヲ得但シ宮中ニ參入スル場合及服

裝ニ付特ニ別段ノ指定ヲ必要トスル場合

ハ此ノ限ニ在ラス

大正八年七月十日

秘書官

年月日

通牒案

秘書官

警視総監

北海道庁長官

庁府県長官

陸軍省軍務局長

海軍省軍務局長

定例議会ニ付テハ別紙ノ通リ

通牒ス

追テ議会ニ関スル事項ハ大正八年度ノ予算ニ関スル調査上

都合ノ有ラバ毎月十五日ノ

到達ヲ以テ

内務大臣

内閣書記官長

内務省

内務大臣

内閣書記官長

別紙

定例議会ニ付テハ別紙ノ通リ

通牒ス

追テ議会ニ関スル事項ハ大正八年度ノ予算ニ関スル調査上

都合ノ有ラバ毎月十五日ノ

到達ヲ以テ

内務大臣

内閣書記官長

別紙

内務大臣

八五一號

大正八年七月五日

書勲局総裁伯爵吉見重熙

内務大臣 床次竹二郎殿

面倒

近来官例教勲者ノ数著シク増加致候ニ付書局事務ノ都合上
毎月ノ叙勲ハ前月末日マテニ書局ニ到達セシムル限リ取扱
フコトトシ来レル旨官例教勲ノ公示実行致候間予メ其
旨ヲ右官例教勲ニ関シ御通達ノ上ハ各地人ノ節
毎年月ヲ其月末日コヲ第人数ニ不共

賞勲局

八七七
丙七五八

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

閣令第一三号　　要件閣議書類綴

大正八年七月廿一日

大臣原　　次官安

書記官長

官吏ノ海外出張関スル件閣議決定ニ依リ奏任官以下ニ主務大臣ニ於テ命スルコトニ相成候ニ付テハ判任官以下ノ海外出張ハ地方長官限リ命スルコトニ委任セラレ不都合無之ト認候ニ付左案ノ通訓令

内務省

訓令案

官吏ノ海外出張ニ関スル件取扱方左ノ通定ム

一、奏任官ノ海外出張ハ其ノ必要ノ理由ヲ具シ稟請スベキコト

一、判任官ノ海外出張ハ廳府縣長官限リ之ヲ命スルコト

内務省訓第五七号

三五、一一九

八月廿五日
達済

（委任）

国立公文書館
National Archives of Japan

出張

4枚
2

閣令第一三号

大正八年七月廿一日

内務大臣原敬

次官

書記官長

官吏ノ海外出張ニ関スル件閣議ニ付シ

リ奏任官以下ハ主務大臣ニ於テ

相成候ニ付テハ判任官以下ノ海外

方長官限リ命スルコトニ委

内

都合無之ト認ム候ニ付左ス

れ成ル無

内務省訓第五七二号

官吏ノ海外出張ニ関スル件

訓令案

官吏ノ海外出張ニ関スル件取

通定ム

一、奏任官ノ海外出張ハ其ノ必

ヲ具シ稟請スヘキコト

一、判任官ノ海外出張ハ庶務

限リ之ヲ命スルコト

三五一一九

八月廿五日

達 済

(奏任)

判任待遇
委任

一、官吏待遇者 当省所管ニ属スルモノ 海外出張ハ
各其ノ本官ノ例ニ依ルコト

右訓令ス

年月日

大臣

警視総監
北海道庁長官
府知事 宛

備考

閣議決定ハ復委任ヲ認メストスルモ（従来類似ノ例アリ）
委任アリタル以上復委任ヲ認スハ主務大臣ノ任意
ナリト解セラル 賞与ニ関シ既ニ復委任相成モ
ハ本件ニ同様手続上差支ナシト思考ス

内務省

官吏ノ海外出張関スル件

閣議決定 一〇二

大正八年六月十六日

内閣書記官長高橋光威

内務大臣床次竹二郎殿

依命通牒

官吏ノ海外出張ニ関スル件爾今左記ノ通處理スルコトニ閣議決定相成候

記

一、親任官ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺湾總督並關東長官ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命スルコト

一、勅任官ノ海外出張ハ從前特ニ委任セラレタル場合ヲ除クノ外内閣總理大臣ノ認可ヲ経テ主務大臣、朝鮮總督、臺湾總督並關東長官ニ於テ之ヲ命スルコト

一、奏任官以下ノ海外出張ハ主務大臣、朝鮮總督、臺湾總督並關東長官限リ之ヲ命スルコト

一、官吏待遇者ノ海外出張ハ各其ノ本官ノ例ニ依ルコト

一、嘱託雇員等ノ海外出張ハ奏任官以下ノ例ニ依ルコト

内務省訓第五七二號

官吏ノ海外出張ニ關スル件取扱方左ノ通定ム

一、奏任官ノ海外出張ハ其ノ必要ノ理由ヲ具シ稟請スヘキコト

一、判任官ノ海外出張ハ廳府縣長官限リ之ヲ命スルコト

一、官吏待遇者（當省所管ニ屬スルモノ）ノ海外出張ハ各其ノ本官ノ例ニ依ルコト

右訓令ス

大正八年八月二十五日

内務大臣床次竹二郎

国立公文書館
National Archives of Japan

閣第五四號

大正九年一月二十六日

内閣書記官長　高橋光威

内務次官　小橋一太殿

通牒

高等試驗委員ノ銓衡ヲ經ル書類ハ爾今法制局内高等試驗委員長ヘ直接送付相成候樣致度

追テ上奏又ハ稟申書ニ添付スヘキ銓衡書ハ本書ヲ進達相成度不得已寫ヲ添附スル場合ハ必ス銓衡番號及同年月日ヲ記入相成度

内閣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

秘書官 大正七年三月二日

七三四 雜四口

内閣書記官長

次官殿

水野内務次官殿

議院提出ノ請願ニ関スル件

各政務官

議院提出ノ請願ニ関スル件ハ別紙ノ通リ閣議ニ付セラレタルニ付テハ貴官ニ於テ其所管ノ事項ニ関係省間ニ協議ノ上専任ノ政府委員ヲ決定シ説明ノ任ニ当ラシムベキモノトス

当日本議場ニ出席シ議事進行ノ支障ヲ生ゼシムサル様致度特ニ貴族院ヨリノ注意モ有之ニ付念ノ為念ノ進候

三七、一三一

大正八年八月廿五日

大臣　秘書官

次官　事務整理委員

内務省訓第五九二號

訓令案

高等官賞與施行方左ノ通定ム

一、年末又ハ年度末（何レカ一回ニ限ル）ニ於ケル年俸月割額三ヶ月分以下ノ賞與ハ廳府縣長官限リ專行スルコト

一、退官、退職、病氣危篤ノ場合ニ於ケル年俸月割額六ヶ月分以下ノ賞與ハ廳府縣長官限リ專行スルコト

一、前二項ノ制限ヲ超ユル賞與ハ其ノ都度理由ヲ具シテ認可ヲ經

内務省

九月一日達濟

三八、一二二

閣議決定ニ

退職ノ年俸ハ休職ノ年俸ニ

/37

ヘキコト

一、第一項並第二項ノ場合以外ノ特別賞與ハ其ノ都度理由ヲ具シテ請可ヲ經ヘキコト

右訓令ス

年月日

大臣

警視総監
北海道庁長官
府縣知事

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

閣甲 二一五

大正七年十一月二十日

高橋内閣書記官長

左記ノ通閣議決定相

一、年末又ハ年度末（代表者一回但年二期賞與ノ慣行アル作業官廳ノ現業員ニ付テハ各回）ニ於ケル年俸月割額三ヶ月分以下ノ賞與ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並関東都督限リ專行スルコト、

一、退官、退職、病氣危篤ノ場合ニ於ケル年俸月割額六ヶ月分以下ノ賞與ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並関東都督限リ專行スルコト

一、前二項ノ制限ヲ超ユル賞與ハ其都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ經ヘキコト

一、第一項並第二項ノ場合以外ノ特別賞與ハ其都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ經ヘキコト

内閣

閣甲 二一五

大正七年十一月二十日

高橋内閣書記官長

内閣

通牒

高等官賞與ニ関シ左記ノ通閣議決定相成候

一、年末又ハ年度末（何ト雖モ一回但シ年二朝賞與ノ慣行アル作業官庁ノ現業員ニ付テハ各回ニ於ケル年俸月割額三ヶ月分以下ノ賞與ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並関東都督限リ専行スルコト、

一、退官、退職、病氣危篤ノ場合ニ於ケル年俸月割額六ヶ月分以下ノ賞與ハ主務大臣朝鮮總督臺灣總督並関東都督限リ専行スルコト

一、前二項ノ制限ヲ超ユル賞與ハ其都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ受ヘキコト

一、第一項並第二項ノ場合以外ノ特別賞與ハ其都度理由ヲ具シテ内閣總理大臣ノ認可ヲ経ヘキコト

139

内務省訓第五九二號

高等官賞與施行方左ノ通定ム

一、年末又ハ年度末（何レカ一回ニ限ル）ニ於ケル年俸月割額三ヶ月分以下ノ賞與ハ廳府縣長官限リ專行スルコト

一、退官、退職、病氣危篤ノ場合ニ於ケル年俸月割額六ヶ月分以下ノ賞與ハ廳府縣長官限リ專行スルコト

一、前二項ノ制限ヲ超ユル賞與ハ其ノ都度理由ヲ具シテ認可ヲ經ヘキコト

一、第一項並第二項ノ場合以外ノ特別賞與ハ其ノ都度理由ヲ具シテ認可ヲ經ヘキコト

右訓令ス

大正八年九月一日

内務大臣床次竹二郎

十七二六
丙 七七六

裏面白紙

141

秘書官
決裁

五四　一二二六

大正十年七月五日

賞勲局總裁伯爵兒玉秀雄

内務大臣床次竹二郎殿

通牒

今般勲章授與式例中別紙ノ通改正相成候

（別紙）

勲章授與式例中左ノ通改正ス（大正十年七月四日裁可）

第二條中「勲三等功五級」ヲ「勲二等功三級」ニ改ム

第三條中「功三級」ヲ「功二級」ニ改ム

第四條中「勲二等、勲三等、功四級又ハ功五級」ヲ「勲二等、功三級」ニ改ム

賞勲局

大正十一年二月十日

秘書官

通牒案

秘書官

警視総監
北海道庁長官
府県知事
各局課長
警察講習所長
土木出張所長
衛生試験所長
栄養研究所長
造神宮副使

首題ノ通 通牒

別紙閣ヘ通牒通常勤務時間御裁可アリ
通牒有之ニ付及移牒候也

秘各通

内務省

勲四　流

大正十一年一月六日

賞勲局總裁伯爵正親町實正

内務大臣床次竹二郎殿

大正十年十一月二十五日前ニ御親署ヲ要スル勲功記ニシテ未タ御親署ヲ經サルモノニ付テハ已ムヲ得サル處置トシテ御親署無之儘交付スルコトニ御裁可有之候條爲念及通牒候

賞勲局

大正十二年八月一日

大臣

次官

官制ニ依テサル委員等設置ノ場合ハ閣議ヲ要ス　内閣書記官長依命通牒

右供覧

通牒案

秘書官長

内務省

各局長

官房課長

社會局長宛

別紙之通内閣書記官長ヨリ通牒有之候ニ付及移牒候也

0000 0899

国立公文書館 National Archives of Japan

閣議案二八九號

大正十二年七月三十一日

内閣書記官長　宮田光雄

内務大臣　水野錬太郎殿

依命通牒

從來各省ニ於テ官制ニ依ラスシテ委員會、調査會等ヲ設置シ他ノ官廳ノ職員ヲモ委員、議員、幹事等ニ任命又ハ囑託スルコトモ有之候處爾今右様ノ場合ニ於テハ一應閣議ニ提出其ノ決定ヲ俟チテ設置スルコトニ相成度候

内閣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十二年八月二日

内務大臣秘書官

別紙之通内閣書記官長ヨリ通牒有之候
ニ付及移牒候也

（別紙）

閣第二八九號

大正十二年七月三十一日

内閣書記官長宮田光雄

内務大臣水野錬太郎殿

依命通牒

從來各省ニ於テ官制ニ依ラスシテ委員、會、
調査會等ヲ設置シ他ノ官廳ノ職員ヲモ
委員、議員、幹事等ニ任命又ハ囑託スル
コトモ有之候處右樣ノ場合ニ於テハ一應
閣議ニ提出其ノ決定ヲ俟チテ設置スルコトニ
相成度候

大正十二年九月十二日

内閣書記官長樺山資英

内務大臣子爵後藤新平殿

依命通牒

今回ノ震災ニ因リ通信機關ニ障害ヲ來シタル爲
叙位内則ニ依ル特旨叙位及位階追陞ノ發令期間中
該叙位ノ奏請ヲ爲スコトヲ得サルモノ多々可有之
ニ付テハ此ノ際ニ限リ之カ期間ニ特例ヲ設ケ左ノ
通期間延長ノ件閣議決定上裁ヲ經タリ

叙位内則中特旨叙位及位階追陞發令期間ニ
特例ヲ設クルノ件

一、特旨叙位期間　一箇月ヲ二箇月ニ延長ス

一、位階追陞期間　十日間ヲ四十日間ニ延長ス

但シ始期ヲ九月一日トシ終期ヲ特旨叙位ニ付テハ
十月三十一日、位階追陞ニ付テハ十月十日トス

閣議第三六四號

大正十二年十月十二日

内閣書記官長樺山資英

内務大臣子爵後藤新平殿

依命通牒

曩ニ及通牒候通リ震災ニ因リ通信機関ニ停害ヲ来シタル為叙位内則中特旨叙位並位階追陞発令期間ニ特例ヲ設クル件中位階追陞発令期間ニ特例ヲ設ケタル終期ハ十一月九日迄之ヲ延長スルコトニ閣議決定上裁ヲ経タリ

大正十二年十月一日

樺山内閣書記官長

塚本内務次官殿

通牒

閣議ノ決定ヲ要スヘキ事項ニシテ閣議ニ提出前既ニ外間ニ洩ルルコト往々有之候處右ハ案件審議上種々支障ヲ生スルコト有之候ニ付爾今右樣ノコトナキ樣嚴重貴管下ニ伝示達相成候樣申取計相成度

四三

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十二年十月十二日

内務省

秘書

次官

通牒案

秘書

警視総監
東京府知事
神奈川県知事
千葉県知事
埼玉県知事
静岡県知事
山梨県知事

十月十四日
施行

三

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者又ハ其ノ他ノ死亡者ニシテ生前勤労著シキ者ニ対シ任官累進累叙位叙勲等ヲ為ス場合ニ於テハ発令ノ日付ニ関スル件別紙ノ通閣議決定ノ旨通牒ス

追テ移牒ス

書記官

十月十四

施行

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者及其他ノ死亡者ニシテ生存ノ別節明シ難キ者ニ対シ仮埋葬費ニ対スル仮定額ヲ定メ其支給ニ関スル件別紙及移牒

内務省

秘第六六号ノ二

（前掲）

警視庁

右ニ付貴省ニ於テハ至急御調査ノ上書類ヲ具シ来月廿五日迄ニ必ス到達スヘキ様内申相成度

右期日ヲ遷延シ期限後ニ於テハ取扱難相成ニ付右会併テ申添候也

151

大正十二年九月十二日

内閣書記官長樺山資英

内務大臣子爵後藤新平殿

依命通牒

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者又ハ其ノ他ノ死亡者ニシテ生前勤勞著シキ者ニ對シ任官、官等陞叙、昇給、叙位、叙勲等ヲ為ス場合ニ於ケル發令日付ニ關スル件左ノ通閣議決定相成候

任官、官等陞叙、昇給、叙位、叙勲等發令日付ニ關スル件

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者又ハ其ノ他ノ死亡者ニシテ任官、官等陞叙、昇給、内則ニ依ル叙位並特旨叙位（期間ノ定メナキモノ）若ハ叙勲及内則ニ依ラサル特旨叙位若ハ叙勲ノ發令日付ニ付テハ各死亡ノ日ニ遡及シテ之ヲ發令スルコトヲ得

但シ始期ヲ九月一日トシ終期ヲ十月十日トス

閣議第三六三號
大正十二年十月十二日
内閣書記官長樺山資英

内務大臣子爵後藤新平殿

依命通牒

曩ニ及通牒(容月十二日付)候任官官等陞敘、昇給、敘位、敘勲等発令日付ニ関スル件中今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者ニ對スル任官、官等陞敘、昇給、内則ニ依ル敘位、特旨敘位(期間ノ定メ)若ハ敘勲及内則ニ依ラサル特旨敘位若ハ敘勲ノ発令日付ヲ各死亡ノ日ニ遡及シテ発令スルコトヲ得ルノ終期ハ十月末日迄之ヲ延長スルコトニ閣議決定相成候

完結

大正十二年十月廿二日

秘書官

電報案　秘書官

静岡縣、神奈川縣、山梨縣、埼玉縣　各知事宛

致度旨、東京府知事ハ電話ニテ

今事務ハ該當者ヲ以テ旨回答ス

本月十四日四、金日ヨリ今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者ハ、任官昇等叙位叙勲ノ件急速内申アリタシ若シ該当者ナキバ其ノ旨通知アリタシ

廿二日延期

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

秘書官

秘甲第五七五号

大正十二年十月二十日

千葉縣知事

内務大臣秘書官殿

任官昇等昇給叙位叙勲ニ関スル件

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者又ハ其ノ他ノ死亡者ニ関スル標記ノ件本月十四日付ヲ以テ御照會ノ趣ハ該當ノ者無之候間御了知相成度ニ付申進候也

秘書官

大正十二年十月廿二日電報

内務大臣秘書官宛　山梨縣知事

電四　會ニ係ル震災ニ因ル死亡者陸拾

叙位　叙勲　該当者ナシ

156

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

電信送達紙

發局	號	日	分	字
コウフ	三七九 ag	一/二	三 四九	二九 廿四 三 九

受信人居所氏名
ナイムダイジン
ヒシヨカン

發信人居所氏名
ヤマナシケン
チジ

指定
ウニ

デンセウカイニカカ
ルシンサイニヨルシボ
ウシヤシヨウトウジ
ヨイジヨクンガ
イトウシヤナシ

着局日附印

記事

157

裏面白紙

大正十二年十月廿三日電報

内務大臣秘書官宛　埼玉縣知事

震災ニ因レ死亡者ナシ

秘書官

158

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

電報送達紙

注意　受付月日の記入を省略したるものは受付の翌日発局に於て受領したるものとす

注意　万一誤入に際しては遅滞なく其向へ送付されたきは其向へ

受信人居所氏名　ナイムガイ　ジンヒヲヨナン番地

受信人居所氏名　サイタマケン

発局　第三又　月　日　局報　号

着局　受信年　月　日　時　分　受信者印

指定

ヒンサイニヨル　ヒガ　ウヒヤナヒ

書局日時印　記事

印刷局製造

159

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十二年十月廿五日 電報

内務大臣秘書官宛　静岡縣知事

官吏職員ニシテ今回ノ震災ニヨリ死亡シタルモノナシ。従テ叙位叙勲等ノ要ナシ

秘書官

宮内省図書寮文庫

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

電報送達紙

受信人居所氏名	発局	着局
サイムダイセイヒヨウカン	第 七〇五 号 ハツハテウ 発信	受付 午 二時 六〇分

カンリヨウイインニヨリテコンカイノシイインサイモボウエタルヨウテイ。ゼヒタウガツクヨウ

161

発信人居所氏名
ヒヅケオカゼ

書局日附印	局番

162

163

裏面白紙

電報送達紙

受信人居所氏名	発局							着局	
	第	月	日	受付 午 時 分	字	受信 午 時 分	受信		

指定

トウヨウスベキモノ

発信人居所氏名

書記事

局印附日書

注意 発付月日が記入を省略したものは呼付の時と同局に於て発信したものとす

注意 刊一件人知れたる電報の配達を終ったときは送信者に通知せらるべし 電報を受信人に配達するに当たり通知したる電報紙所に到着せらるべし 電報紙又は其の写を紛失したるときは

162

163

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

内務省

163

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十二年十月十一日

大臣　　秘書官

次官

照会案

十月十六日閣議決定

内閣書記官長発

今回ノ震災ニ因リ死亡シタル者又ハ其他ノ死亡者ニシテ生前勤労著シキ者ニ特シ位階陞叙恩賞等ノ取扱ニ関スル件ハ今日付ニ閣議決定ノ旨依命通牒ノ次第モ有之ニ付当省所管内ニ於テ今尚生死不明ニシテ調査完了ス能ハサル者ノ有之候ハヽ其ノ状況ニ付テハ右終期ヲ本月廿一日迄延

内務省

期相成候様御取計相成度此段
及照會候也

内務省

大正十二年十一月十四日

直隣東　祕書官

警視廳
北海道廳
府縣知事

社寺局長
内務省道路局長

十月十日
施行

四五

退官退職又ハ休職ヲ命セラレタル文官又ハ
官吏ノ待遇ヲ受クル者ノ再就職ノ場合ニ
於ケル制限ニ関シ別紙ノ通閣議決定
ノ旨ニ依リ之ヲ移牒ス

内務省

166

大正十二年十月十四日

次官

秘書官

通牒案

秘第　号

警視庁
北海道庁
府県

社寺ニ対スル
取扱ニ関シ
別紙ノ通
内務大臣ヨリ
通牒ス

退官退職又ハ休職ヲ命セラレタル
官吏ノ待遇ヲ受クル者ノ再就職
ニ関シ別紙ノ通
内務大臣ヨリ
通牒ス

四五

十月十日
施行

国立公文書館
National Archives of Japan

閣議第三九八號
大正十二年十一月十日
内閣書記官長樺山資英

内務省官吏退職又ハ休職ニ関スル件

通牒

今般退官退職又ハ休職ヲ命セラレタル文官又ハ官吏ノ待遇ヲ受クル者ノ再就職ノ場合ニ於ケル制限ニ関シ左ノ通閣議決定相成候

一、自己ノ都合又ハ病氣ニ因リ退官若ハ退職シ又ハ事務ノ都合ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ハ爾後三箇月以上経過スルニ非サレハ之ヲ採用セサルコト

二、特別ノ事情ニ依リ採用ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ事情ヲ詳細ニ具シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クルコト

三、退官退職又ハ休職ヲ命セラルル際所定ノ年限ニ達セスシテ特ニ内閣總理大臣ノ認可ヲ経テ昇級シタル者再就職ノ場合ニ於テハ其ノ昇級ハ之ヲ認メサルコト

閣議書第二七號　秘書官

大正十三年一月二十三日

内閣書記官長　小橋一太

次官

大臣

内務大臣　水野錬太郎殿

恩赦ニ関シ本日左ノ通閣議決定相成候間此段及通牒候也

記

一　大正十二年九月ノ震災當時ニ於ケル混乱ノ際朝鮮人犯行ノ風説ヲ信シ其ノ結果自衛ノ意ヲ以テ殺傷行為ヲ為シタル者ニ對シテハ事犯ノ軽重ニ従ヒ特赦又ハ特別特赦ノ手續ヲ為スコト但シ官憲ニ對シテ甚シキ暴行ヲ為シ官廳ヲ破壊シ著シキ残虐ノ行為ヲ為シ其ノ他犯情特ニ重キ者ニ對シテハ其ノ手續ヲ為サザルコト

二　刑ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタル後罪ヲ累ヌルコトナクシテ満二十年ヲ經過シ改悛ノ情ヲ認メ得ヘク且生計上公費ノ救助ヲ受ケ其ノ他之ニ類スル事實ナキ者ニ對シテハ復權ノ手續ヲ為スコト但シ別案減刑ニ関スル勅令案第六條ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ其ノ手續ヲ為サザルコト

四六

制令第　號

第一條　大正十三年一月二十六日刑法ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行開始、執行猶豫中、執行中若ハ執行停止中ノモノ又ハ恩赦中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ免ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ有期懲役二十年、無期禁錮ハ之ヲ有期禁錮二十年トス但シ本令施行ノ際七十歳以上ノ者ニ付テハ刑期ヲ十五年トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一　他ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行期間ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル

三　本令施行ノ際七十歳以上ノ者ニ付テハ前二號ノ規定ニ依ラス

刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

前項ノ規定ニ依リ減スヘキ期間ヲ計算スルニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生スルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ掲クル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二　刑法第百三十一條第二項ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百八十一條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪

四　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

五　刑法第二百五條第二項ノ罪

六　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

七　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

八　刑法第二百四十條ノ罪ノ中人ヲ死ニ致シタル罪及第二百四十一條ノ罪並其ノ未遂罪

九　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ國各就ニ掲クル罪ト性質ヲ同クスルモノ

十一　前各號ニ掲クル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪

第七條　大赦、特赦、減刑又ハ復權ヲ得タル後再ヒ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ減刑ヲ爲サス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

閣議甲第二六號

大正十五年一月二十三日

小橋内閣書記官長

次官

井上匡次郎

別紙閣令目閣議決定案ル二十六日公布ノ勅定ニ有之候此段懸メ及通牒候也

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

攝政名

大正十三年　月　日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第　號

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正十三年一月二十六日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除シ未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ」

停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其ノ停職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秘

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ関スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

攝政名

年　月　日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第　號

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正十三年一月二十六日前ノ所為ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス

未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ

懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

閣第一〇五號

大正十三年二月二十七日

内閣書記官長　小橋一太

内務次官　井上孝哉殿

通牒

高等官官等俸給令ノ改正ニ伴ヒ高等官官等匹敵年限算定内規中左ノ通決定相成候

高等官二等ヲ最高官等トスル二等在職四年以上ニシテ高等官一等ニ匹敵セシムル官中ニ復興局部長ヲ加フ

内閣

大正十三年三月六日

秘書官

文書課長

次官

通牒案

警視總監
北海道長官　各宛
府縣知事

秘書官

國家ニ勲功若ハ勲勞アル者病氣危篤ノ際ニ於テハ

内務省

叙勲又ハ勲章加授發令日附ニ關スル件別紙ノ通

賞勲局総裁ヨリ通牒有之候ニ付

為御心得及移牒候也

遠隔其他功績事項調査ニ付意外ノ支障ヲ來シ

為ニ不得已遲延スル等特別事由存スルモノニ限リ

準施ノ際ニ陷ラサル樣特ニ御留意相成度候

通用カルモノニ有之旨當勲局ヨリ通牒有之候御

勳内發第二八二號

大正十三年三月一日

賞勳局總裁子爵仙石政敬

内務次官井上孝哉殿

從書官

文書課

危篤級勳發令日附ニ関スル件通牒

國家ニ勳功若ハ勳勞アル者病氣危篤ノ際ニ於ケル級勳又ハ勳章加授發令日附ニ関スル件別紙ノ通閣議決定上裁ヲ經候ニ付及通牒候處右ハ一般危篤級勳ニ付テハ毫モ從來ノ取扱ト異動無之唯本人所屬官署ノ遠隔其ノ他功績事項調査ニ付意外ノ支障ヲ來シ爲ニ不得已遲延スル等特別ノ事由存スルモノニ限リ例外トシテ適用アルモノニ有之濫施ノ弊ニ陷ラサル樣特ニ御留意相煩度

176

裏面白紙

國家ニ勲功若ハ勲勞アル者ニ對シ病氣危篤ノ際ニ於ケル敍勲又ハ勲章加授發令日附ニ關スル件

從來多年國家ニ勲功若ハ勲勞アル者ニ對シ病氣危篤ノ際特ニ敍勲又ハ勲章加授ノコトニ取扱ハレ居候處功績調査中往々其ノ機ヲ失シ本人生前ノ功績ヲ表彰スルコト能ハサルノ憾アリ仍テ自今死亡ノ場合ニモ亦其ノ日ヨリ十日ヲ經過セサル期間内ニ於テ戰時又ハ特別行賞ノ場合特ニ生前ノ日附ヲ以テ賞賜セラルルノ例ニ倣ヒ特ニ敍勲又ハ勲章加授ヲ爲スコトヲ得

賞勲局

177

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

内務二三二号
大正十三年三月八日

内務大臣秘書官

賞勲局総裁子爵仙石政敬殿

内務次官井上孝哉殿

危篤叙勲発令日附ニ関スル件通牒

国家ニ勲功若ハ勲労アル者病気危篤ノ際ニ於ケル叙勲又ハ勲章加授発令日附ニ関スル件別紙ノ通閣議決定上裁ヲ経候ニ付及通牒候ニ付為御心得及移牒候也

（別紙）

内務次官ヨリ
大正十三年三月一日

国家ニ勲功若ハ勲労アル者ニ対シ病気危篤ノ際ニ於ケル叙勲又ハ勲章加授発令日附ニ関スル件別紙ノ通閣議決定上裁ヲ経候ニ付及通牒候右ハ一般危篤叙勲ニ付テハ毫モ従来ノ取扱ト異動無之唯本人所属官署ノ遠隔其ノ他功績事項調査ニ付意外ノ支障ヲ来シ為ニ不得已遅延スル等特別ノ事由存スルモノニ限リ例外トシテ適用アルモノニ有之濫施ノ弊ニ陥ラサル様特ニ御留意相成度

（別紙）

国家ニ勲功若ハ勲労アル者ニ対シ病気危篤ノ際ニ於ケル叙勲又ハ勲章加授発令日附ニ関スル件

従来多年国家ニ勲功若ハ勲労アル者ニ対シ病気危篤ノ際特ニ叙勲又ハ勲章加授ノコトニ取扱ハレ居候処功績調査中往々其ノ機ヲ失シ本人生前ノ功績ヲ表彰スルコト能ハサルノ憾ヤリ仍テ自今死亡ノ場合ニモ亦其ノ日ヨリ十日ヲ経過セサル期間内ニ於テ戦時又ハ特別行賞ノ場合特ニ生前ノ日附ヲ以テ賞賜セラルルノ例ニ倣ヒ特ニ叙勲又ハ勲章加授ヲ為スコトヲ得

例規

内務大臣官房
13.5.2
秘書課

閣第一八六號

大正十三年四月三十日

内閣書記官

内務大臣秘書官殿

回答

一十五日付大臣官房内第四七二號ヲ以テ照會ノ趣了承右ハ大正十年勅令第二百二十三號第一條中在職年數通算ニ付テハ兼官タル高等官三等ノ在職年數ハ之ヲ同令第一條ノ在職年數ニ通算ス但高等官四等ヲ最高官等トスル官ニシテ特ニ叙級セラレタル高等官三等ノ在職年數ハ之ヲ通算セス判任官ニ付テハ貴見解ノ通ニ付承知相成度

内閣

四九

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十三年四月廿三日

秘書官

安本

秘書官

内閣書記官長宛

内閣
照會

大正十年勅令第二百二十三號奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件ハ叙官ニ對シテ適用セラレタル從官在職年數ハ第一條ノ在職年數ニ通算スベキ限ニ在ラズト思考致候得共考慮御意見異

知致度候

内務省

五

七二號

12月廿日

十三年四月二十九日

官

秘書官

案

次官

警視總監
北海道廳長官
府縣知事

通牒

五一七號

五月三日

七

叙位叙勲ノ御内申ニ付テハ常ニ御注意為相成居候コトト存候得共往々ミシテ書類ノ不備年數ノ誤算身分異動通知ノ遲延等處理宜シキヲ得サル向有之為ニ當省ニ於ケル措置上遺憾ノ點尠カラス候處右ニ鑑シ今般内閣書記官長ヨリ別紙通牒ノ次第モ有之候ニ付一層御注意相成度候

大正十三年四月二十九日

秘書官

官

次官

警視總監
北海道廳長官
府縣知事

案

通牒

叙位叙勲ノ御内申ニ付テハ常ニ御注意相成居候コトト存候得共往々ミシテ書類ノ不備年數ノ誤算身分異動通知ノ遲延等處理宜シキヲ得サル向有之為ニ當省ニ於ケル措置上遺憾ノ點尠カラス候處右ニ鑑シ今般内閣書記官長ヨリ別紙通牒ノ次第モ有之候ニ付一層御注意相成度候

内務省

五一七號

五月三日

七

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

閣第一八一號

大正十三年四月二十八日

内閣書記官長　小橋一太

内務次官井上孝哉殿

内務大臣官房 13.4.29 秘書課

通牒

叙位叙勲等ノ上奏書ノ誤ニ関シ先年別紙ノ通注意致置候處其ノ後モ往々上奏ノ取消ヲ為スモノ或ハ上奏後本人ノ身分ニ異動ヲ生シタル場合ノ通報遅延又ハ其ノ處理宜シキヲ得ザルヲ為若ハ調査不備ノ為賞格更正発令日附更正等ノ上奏ニ誤ノ人モノ尠カラス甚恐懼ノ至リニ堪ヘサル次第ニ有之右ハ畢竟取扱者ノ不注意ニ依ルコトト思料セラレ候ニ付テハ已ニ充分御注意セラレ居ルコトトハ存シ候ヘ共将来尚一層調査ヲ厳密ニセラレ右様ノ上奏ヲ為スコトナキ様格別ノ御配意相成度茲ニ重ネテ申進候

追テ地方廳ノ取扱ニ関係ヲ有スル向ニハ夫々其ノ旨通達相成度為念申添候

（別紙）

大正十年月　日

内閣書記官長

次官宛

通牒

近来叙位叙勲等ノ上奏書ニ誤アリテ後日取消ノ上奏ヲ為スモノ尠カラス右ハ詢ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ニ有之ニ付若シ誤アリタルトキハ其ノ取扱者ニ對シ相當戒飾ヲ加フルト共ニ其ノ原因ヲ明ニシ爾後再ヒ右様ノ失態無之様特ニ御配意相成度

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

昭和二年二月廿八日

二二一

案

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

敦賀者ニ當スル敦賀紙ハ直ニ貴敦賀書記官ヨリ申越

有之ハ其ニ付[illegible]及

移牒候也

内務省

0000 0941

国立公文書館 National Archives of Japan

五一

三一

二二一號

昭和二年二月廿八日

案

[illegible] ㊞

内務大臣

北海道庁長官

府県知事 宛

叙勲者ニ對スル勲記送達方ニ付別紙ノ通賞勲局書記官ヨリ申越

有之候ニ付御含置相成度及

移牒候也

六

内務省

勲七等叙勲ノ件

昭和二年二月二十五日

賓勲局書記官

内務大臣官房秘書課長殿

叙勲者ニ對スル勲記送達方ニ付テハ素ヨリ責重品扱トシ夫々遺漏ナキ様御處理相成候事ト被存候處往々本人ヘ交付前紛失等ノ故ヲ以テ之レカ再下附ヲ申出ル向モ有之候元來勲記ハ總テ國璽ヲ鈐セラレ就中勲二等以上ノモノニハ御親署被爲在儀ニ付万々一紛失等ノ事有ラハカ其ノ責任ノ重大ニシテ及ホス所亦尠ナカラサルベキハ勿論其ノ事情ノ如何ニ依リテハ容易ニ再下附ノ詮議可難相成斯クテハ叙勲者ニトリ遺憾至極ノ儀ト被存候殊ニ近時叙勲者数ノ増加ニ伴ヒ勲記ノ取扱ニ付テモ自然繁雑ヲ加フヘク候ニ付御含ミノ上取扱責任者ノ歸屬ヲ明ニスル等万遺憾ナク鄭重取扱方御留意煩度爲念申進候也

内第二二一號
昭和二年二月一日
内務大臣秘書官

紋勲者ニ對スル勲記送達方ニ付別紙ノ通賞勲局書記官ヨリ申越有之候ニ付御含置相成度及移牒候也

（別紙）
勲内發第七八號
昭和二年二月二十五日

賞勲局書記官
内務大臣官房秘書課長殿

紋勲者ニ對スル勲記送達方ニ付テハ素ヨリ貴重品扱トシ夫々遺漏ナキ樣御處理相成候事ト被存候處往々本人ヘ交付前紛失等ノ故ヲ以テ之レカ再下附ヲ申出ル向モ有之候元來勲記ハ總テ國璽ヲ鈐セラレ就中勲二等以上ノモノニハ御親署被爲在儀ニ付万々一紛失等ノ事有ラムカ其責任ノ重大ニシテ及ホス所亦尠ナカラサルベキハ勿論其ノ事情ノ如何ニ依リテハ容易ニ再下附ノ詮議可難相成斯クテハ紋勲者ニトリ遺憾至極ノ儀ト被存候殊ニ近時紋勲者數ノ增加ニ伴ヒ勲記ノ取扱ニ付テモ自然繁雑ヲ加フ（ク）候ニ付御含ミノ上取扱責任者ノ歸屬ヲ明ニスル等万遺憾ナク鄭重取扱方御留意煩度爲念申進候也

大正十三年五月十二日

宮内省

祕書官

通知案

祕書官

官房課長

各局長

社會局長官

復興局長官

明治神宮造營局長

内務省

通牒

各種委員會ノ委員議員幹事等ノ命免ニ關スル取扱方別紙ノ通決定ノ旨閣議官長ヨリ依命及移牒

仮

五月十九日 決

五八九號

187

国立公文書館
National Archives of Japan

五月十九日付

秘書官 丙第五八九號

大正十三年五月十二日

宮内大臣

秘書官

通知案

秘書官

各局長、官房課長

社會局長官

復興局長官

明治神宮造營局長

通牒

各種委員會ノ委員議員ノ命免ニ關スル取扱方決定ノ旨閣議ニ付セラレタリ

追テ如別記官長ヲ有ル者ハ假ニ

内務次官 井上孝哉殿

188

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]ヨリ其ノ国通知スルコト（通知文ハ別紙ノ通）

[illegible]

[illegible]ニ於テハ今後ハ必ズ其ノ本人ノ国籍ニ[illegible]

別紙

通知文例

(一)本人ニ到スル通知

年　月　日　　内閣書記官長

主務各次官

本人　宛

通知

例(一)　貴官ハ　年　月　日　議・・・・・・・・官制ニ依リ・・・・

・・委員ト相成候旨通知

例(二)　貴官（所下）ノ・・・・・・委員ハ　　廢止（免官）ニ

付リ通知相成ト相成候旨通知

備考　(一)内閣所管ノ委員會ノ委員等ニシテ各省所屬ノ官吏タル者ニ到スル通知ハ内閣書記官長ヨリ各省次官宛ニ之ヲ爲スモノトス

(二)官報ニ依ラサル委員會ノ委員等ノ命免ヲ官報ニ登載セサル場合又ハ本決定第四號ニ依リ通知スル事項ハ内閣書記官ヨリ其ノ委員長及各省次官ニ到シ其ノ旨通知スルモノトス

国立公文書館
National Archives of Japan

(二)内閣ニ於テスル通知

年　月　日　所属官廳

内閣書記官御中

委員等消滅ニ帰スル件通知

左記ハ●●●●●ニ因リ各頭書ノ●●●●●自然消滅ト相成候

●●●●●官（元官）氏名

●●●●●委員

●●●●●書長　氏名

国立公文書館
National Archives of Japan

例規

大正十三年五月三十日

次官 ㊞ 秘書官 ㊞ 官房 ㊞

通牒案

警視總監
北海道長官
府縣知事
地方局長
社會局長官
復興局長官
造神宮副使
神社局長
宛各通

內務省

叙勲內則中別紙ノ通リ改正ノ旨賞勲局ヨリ通牒有之候ニ付此段及移牒候也

内務大臣 丙 七号之號

六十二

九三

内務大臣官房
13.5.28
社寺課

勲六六二號
大正十三年五月二十七日

賞勲局總裁子爵仙石政敬

内務大臣 水野錬太郎殿

通牒

叙勲内則中別紙ノ通改正相成候

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

紋勲内則中左ノ通改正ス

第三十條中「官吏恩給法第三條第四條第十三條第二項ニ依リ退官シタル者」ヲ「恩給法第六十條第一項第五項第四十六條宮内省恩給令第四十四條第一項第四項第三十一條ニ依リ退官シタル者」ニ、同條但書中「官吏恩給法第三條軍人恩給法第四條第二項第三項ニ掲ケタル者」ヲ「恩給法第四十六條宮内省恩給令第三十一條ニ依リ退官シタル者」ニ改ム

第三十四條第一項第一號中「從軍年」ヲ「第三十六條ニ依ル加算年」ニ改ム

第三十六條ヲ左ノ如ク改ム

從軍其ノ他特殊ノ勤務ニ服シタル者ハ恩給法第三十二條乃至第三十五條ニ依リ加算スルコトヲ得但恩給法第三十五條ニ該當スルモノニ就テハ議定官ノ議決ヲ以テ取捨ス

附　則

本則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

国立公文書館
National Archives of Japan

叙勲内則

現行規定

官吏恩給法

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年令六十歳ヲ超ヘ退官ヲ許シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廃官廃廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尚其ノ最下金額ノ十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ従事シ為メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五ノ年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラス恩給ヲ給ス

第十二條第三項

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市長町村長助役收入役名譽職參事會員東京市京都市大阪市北海道區長沖縄縣區制ニ

参照

関係條文抜粋

叙勲内則第二十條中改正参照

依ル區長及居留民團ノ民長、助役、會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

恩給法（新恩給法）

第六十條ノ二項

文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

同　條ノ五項

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條

公務員ニ依ル爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癈疾カニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員ニ依ル爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ

現行

不具廢疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタル
トキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

宮内省恩給令第三十條

第三十條 宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナシトシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナシトシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖宮内省恩給審査会ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ宮内職員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

宮内省

〃 内則第二十條但書參照

官吏恩給法第三條 前掲出

軍人恩給法

第四條 ~~[illegible]~~ 退職恩給ハ準士官以上ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一、戰鬪又ハ戰時平時ニ拘ラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ

一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準ズベキ者ニシテ退職シタルトキ

三、戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ラズ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハズシテ勤務ニ從事シタル爲メ二肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準ズベキ者ニシテ退職シタルトキ

恩給法第四十六條　前掲出

官吏恩給令第三十條ニ前掲出

改正

改正

恩給法

第三十條ニ公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記ノ例ニ則リ第三十六條參照

各號ノ規定ニ依リ加算ス

一、戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二、戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スベキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍並戰爭ニ準スベキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

内務省

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員或嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國領域ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十三年六月十日

次官

案

次官

各局長 官房課長
社會局長官 明治神宮造營局長
復興局長官 遞信局副使
栄養研究所長
恤兵部備品所長

内務省

五四

六十一

七月二日

内務大臣 衛生試驗所長

各廳ニ於ケル事務ノ簡捷及能率ノ增進ノ
達成ニ關スル件ニ關シ別紙ノ通閣
議決定ノ旨内閣書記官長ヨリ通牒
右之段ニ付及移牒候

内閣四乙第四

大正十三年五月三十日

小橋内閣書記官長

水野内務大臣殿

通牒

各廳ニ於ケル事務ノ簡捷及能率ノ増進ノ達成ニ関スル件

ニ関シ本日左記之通閣議決定相成候

各廳ニ於テ事務ノ簡捷及能率ノ増進ヲ達成スル為特ニ留意シ之カ為各廳文書處理方法、各廳面會時間、各廳文書ノ用紙及記載方法其ノ他ニ付各省ニ於テ更ニ一層適切ナル方法ヲ定メ内閣總理大臣ニ報告スヘキモノトス

国立公文書館
National Archives of Japan

13.6.24

内閣

閣令第

大正十一年閣令第六號中左ノ通改正ス

大正十三年　月　日

内閣總理大臣　子爵　加藤　明

第一項ヲ左ノ如ク改ム

官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ七月二十日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

午前八時ヨリ午十二時迄

九月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

十一月一日ヨリ二月三十一日迄

午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

第四項ヲ左ノ如ク改ム

本廳長官ハ所屬廳長ニ爲シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ出張ノ期間ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ出張ノ都合ニ依リ官廳執務時間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ期間ニ應シテ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

附則

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

0000 0961
国立公文書館
National Archives of Japan

急

大正十三年七月十日

大臣 次官 秘書官

案

官房各課長 各局長 秘書官

社会局長官 復興局長官

総務部計長

明治神宮造営局長 明治神宮副使

東京衛生試験所長 栄養研究所長

内務省

成業務局長 庶務局長

土木試験所長 東京土木出張所長

明十一日故従一位大勲位公爵松方正義葬儀ニ付別紙ノ通リ通牒有之候条隨意参拝可致事

施行 七月十日

内務大臣官房
13.7.11
秘書課

大正十三年七月十日

江木内閣書記官長

若槻内務大臣殿

依命通牒

来ル七月十二日故従一位大勲位公爵松方正義
葬儀ニ付テハ當日各長官ノ心得ヲ以テ東
京所在諸官衙在勤ノ者ニ限リ隨意参
拝ノ儀差許サレ可然

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十三年七月十日

内務大臣秘書官

明十二日故從一位大勲位公爵松方正義葬儀ニ付別紙ノ通リ通牒有之候条隨意参拜可然候

別紙

大正十三年七月十日

江木内閣書記官長

若槻内務大臣殿

依命通牒

来ル七月十二日故從一位大勲位公爵松方正義葬儀ニ付テハ當日各長官ノ心得ヲ以テ東京所在諸官衙在勤ノ者ニ限リ隨意参拜ノ儀差許サレ可然

七月四日発電

大正十三年七月三日

大臣

次官

政務局

内務省

直発

長崎縣知事宛

秘第　号

綱紀粛正ニ関スル訓令ニ付当省ニ別ニ通達セラルヽコトナシ

206

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

雲浪御[illegible]

長崎[illegible]

[illegible]

綱紀粛正ニ関スル[illegible]

今ニ付当省ノ[illegible]

[illegible]アルヤ[illegible]

内務省

[illegible]

[illegible]度シ[illegible]

内務省

207

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

内務省用電報送達紙

宛名	局	受信	記事
宛名	第一九〇番	第二時九分	

発信人名所

日附

番号 第八號

大正十三年八月五日

大臣 次官

案

警視總監
北海道廳長官
各府縣知事

宛

今般内閣訓令弾外ノ次ノ内閣總理大臣
内務省
官紀振肅ニ関シ訓諭相成度旨訓令
別紙及送附ス条貴管下各官署ニ
配布ノ上訓令ノ趣旨職員一同ニ徹
底致ス様特ニ十分ノ手配相成度

案ノ二

官房課長 各局長

社会局長官 復興局長官
慈恵講習所長
戦災復興事務局長
造神宮司廳
附給地整理局長
名古屋出張所長
土木試験所長
衆議院議員
貴族院議員

武井警視庁総監　　鹿岳警保局長

今般内閣訓令第弾外ノ次ヲ内閣總理大臣ヨリ官紀粛正ニ関シ訓諭相成度処右訓令別紙及送附上奏訓令ノ趣旨職員一同ニ徹底致ス様十分ノ御手配相成度

内務省

大正十三年七月十六日

江木内閣書記官長

湯浅内務次官殿

通牒

今般内閣訓令號外ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ官紀振肅ニ関シ訓諭相成候處右訓令別紙及送付候條貴管下ノ各官署ニ配布ノ上訓令ノ趣旨職員一同ニ徹底致ス様特ニ十分ノ御手配相成度

別紙

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

原本不明瞭

裏面白紙

内閣訓令號外

各官廳

方今ノ世局最モ人心ノ更新ヲ急トスルノ時ニ當リ積年ノ頽風ヲ一洗シ現下ノ沈滯ヲ決スルハ綱紀ノ肅正ニ待ツノ外ナシ綱紀ノ肅正ハ固ヨリ官民一致之ニ當ルヘキモノナリト雖官務ヲ奉スル者皆能ク率先シテ官紀ノ振肅ヲ實現シ進テ一般綱紀ノ肅正ニ資スルハ其ノ必要殊ニ緊切ナルヲ感ス

一官吏服務ノ事タル夙ニ其ノ制アリト雖近時漸ク弛緩ノ狀ヲ呈シ往往ニシテ公正ヲ紊リ爲ニ刑辟ニ觸ルル者アリタルハ寔ニ遺憾ニ堪ヘス官吏タル者ハ向後一層服務規律ヲ恪守シ身ヲ持スルコト端正廉潔以テ官吏タルノ威信ヲ保持スヘシ

一凡ソ官吏ハ公器ニ參與ス宜シク心ヲ虛クシ私ヲ去リ至公至正以テ事ニ當ルヘキ者トス然ルニ或ハ親戚故舊又ハ同鄕等ノ貪緣ニ依リ或ハ一黨一派ニ偏倚シ或ハ同僚ノ間ニ黨ヲ作リ朋ヲ成シテ互ニ庇保引援シ動モスレハ條理ヲ枉ケ裁斷ヲ左右スルカ如キノ事ナシトセス向後官吏ハ情實ノ弊ヲ排シ公私ノ別ヲ明ニシ嚴正公平ノ地歩ニ立チテ官務ニ鞅掌スヘシ

一官吏ハ誠實恪勤其ノ職ニ盡シ一意公ニ奉スルヲ以テ念トセサ[illegible]

責ヲ重ンセス怠惰ニシテ緊張ヲ缺クカ如キハ最モ愼ムヘキ所

注意ヲ處務ヲ敏捷ナラシメ之カ改善ノ爲ニハ常ニ思索ヲ凝ラ[illegible]

一官吏ニシテ民間ト接觸スルコト多キ職司ニ在ル者ハ懇切鄭寧ヲ旨トシテ一般ノ[illegible]

方今ノ世運ニ適應セムコトヲ勉ムヘシ

一官廳執務時間ノ制ハ一切處務ノ規準タリ特ニ出勤時間ハ其ノ第一規準タルヘキモノナルヲ以テ從來幾ヒカ之カ厲行ニ勉メタルコトアリシモ今尙正刻ニ後レテ登廳スル者少シトセス此ノ如キハ執務ノ能率ヲ減退セシメ殊ニ民間トノ交渉多キ官廳ノ如キ一般ノ之カ爲ニ蒙ル損失決シテ鮮少ナラサルヘシ今回官廳執務時間ニ改正ヲ加ヘタルハ一般官吏ヲシテ研究休養ノ餘裕アラシムルト共ニ一層出勤時間ヲ厲行シ執務能率ノ增進ヲ期スルニ外ナラス向後官吏ハ宜シク此ノ旨趣ヲ體シテ出勤時間ヲ嚴守スヘシ

以上擧クル所ハ固ヨリ官紀振肅ノ一端ニ外ナラスト雖之カ實效如何ハ關スル所極メテ大ナルモノアリ所屬ノ長官ハ特ニ意ヲ此ニ用ヰテ諸僚ヲ督勵シ戒愼以テ事ニ從ハシメ苟モ違フ者アラハ寬假スルナク能率增進ノ實現ニ就テモ亦能ク適切ナル方途ヲ講シ一ニ振張刷新ノ實ヲ擧ケ進テ世局ニ一新生面ヲ開カシムルニ裨補スル所アルヘシ

大正十三年六月二十四日

内閣總理大臣　子爵　加藤高明

国立公文書館 National Archives of Japan

大正十三年八月七日

湯浅内務次官

今般内閣訓令騙外ヲ以テ内閣總理大臣ヨリ官紀振粛ニ関シ訓諭相成候處右訓令別紙及送付候条訓令ノ趣旨職員一同ニ徹底致ス様十分ノ御手配相成度

大正十三年八月十一日

江木内閣書記官長

内務大臣
次官
参考
内務大臣殿

参考通知

本日内閣總理大臣ヨリ部内ノ部局長ニ對シ別紙ノ通訓諭相成候ニ付為参考及通知候

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

現下法令完備ノ状ヲ見ルニ綱擧リ目張リ細大漏ラスナク宛然一大法網ヲ為ス殊ニ個人又ハ團体ノ行為ニ亘リテ認可許可ヲ受ケシムル等制限的ノ事項亦甚タ少カラス其ノ法令制定ノ由来ヲ尋マレハ必シモ咎ムヘキ所ナシト雖一面一般公衆ヨリ見レハ頗ル煩瑣ニ堪ヘサルモノアリ法制定其ノモノニ惡意ナシトスルモ其ノ結果ニ至リテハ善意ノ苛政タルノ感ナシトセス是レ正ニ法治制ニ伴フ一種ノ弊實ト謂ハサルヘカラス今行政ノ釐革ヲ為シ一面ニ於テ執務ノ能率ヲ増進スルニ付テハ此ノ法網ヲ整理シ而シテ一般公衆ノ利便ヲ圖ルヘキハ行政官ノ特ニ意ヲ用フヘキ所ナリ更ニ今日ノ行政組織ヲ見ルニ各所管每ニ部アリ局アリ又課アリ係アリ局課愈々分岐シテ組織愈々密ヲ極メ宛然一個ノ「ピラミッド」状ヲ成セリ是ヲ以テ一般公衆ハ所管ヲ尋ネテ右往左往大ニ惑ヒ不便ヲ感スルコト尠カラス之レ亦今日ノ行政組織ニ伴フ弊實ノ一ナリ斯ノ如キ部内ノ分課ハ成ルヘク之ヲ少カラシメ又努メテ上級ニ在ル者執務ノ中心ト為ルニ於テハ自ラ處務ノ刷新簡捷ヲ期シ一般公衆ノ利便ヲ増進スルコトヲ得ヘシ其ノ他執務ノ能率ヲ増進スル手段方法ハ多々アルヘシト雖今左ニ数項ヲ擧ク宜シク之カ實現ヲ期スヘシ

一、執務ノ方法ハ上ヨリ下ヘ移ン主トシテ局長又ハ課長等高等官自ラ執務スルノ方針ヲ採ルコト　（局長中心主義）

二、官吏ハ執務ニ當リテ常ニ改善ノユ夫ヲ凝ラシ煩瑣ヲ除キ簡易ニ就カシムルコト　（處務簡捷主義）

三、執務ニ當リテ努メテ機械ノ應用ヲ圖ルコト　（處務機械化主義）

四、處務ニ當リテハ速ニ裁断シ裁断シタルモノハ即時決行シ以テ事務ノ停滞ヲ除クコト　（速断即行主義）

五、努メテ形式ニ拘泥スルヲ排シ専ラ實質ニ付裁断スルコト
（實質尊重主義）
六、常ニ執務ニ興趣ヲ感セシメ疲勞除去ノ方法ヲ講スルコト
（興趣亢進主義）
七、部局ノ長ハ絶エス部下ノ能否ヲ注視シ適材ヲ適所ニ配置スルコト（適材適所主義）
八、適材ヲ永ク同一地位ニ置クコト（適材重用主義）
九、官吏ハ恪勤精勵タルヘキコト（恪勤精勵主義）
十、官吏ハ健康保持ニ注意スルコト（健康尊重主義）
十一、官吏ハ虚禮ヲ排シ質實ノ風ニ就クコト（質實剛健主義）

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十三年八月十一日加藤内閣總理大臣ハ部内ノ部局長ヲ會シテ左ノ通訓諭セラレタリ

現下法令完備ノ狀ヲ見ルニ綱擧リ目張リ細大漏ラスナク宛然一大法網ヲ成ス殊ニ個人又ハ團體ノ行爲ニ亙リテ認可許可ヲ受ケシムル等制限的ノ事項亦甚少カラス其ノ法令制定ノ所以ヲ尋ヌレハ必シモ責ムヘキ所ナシト雖一面一般公衆ヨリ見レハ頗ル繁瑣ニ堪ヘサルモノアリ法制定其ノモノニ惡意ナシトスルモ其ノ結果ニ至リテハ善意ノ苛政タルノ感ナシトセス是レ正ニ法治政治ニ伴フ一種ノ弊竇ト謂ハサルヘカラス今行政ノ釐革ヲ爲シ一面ニ於テ執務ノ能率ヲ增進スルニ就テハ此ノ法網ヲ整理シ而シテ一般公衆ノ利便ヲ圖ルヘキハ行政官ノ特ニ意ヲ用フヘキ所ナリ次ニ今日ノ行政組織ヲ觀ルニ各所管毎ニ部アリ局アリ更ニ課アリ係アリ局課愈〻分岐シテ組織愈〻密ヲ極メ宛然一個ノ「ピラミツト」狀ヲ成セリ是ヲ以テ一般公衆ハ所管ヲ尋ネテ右往左往大ニ惑ヒ不便ヲ感スルコト尠カラス是レ亦今日ノ行政組織ニ伴フ弊竇ノ一ナリ斯ノ如キ部内ノ分課ハ成ルヘク之ヲ少カラシメ又上級ニ在ル者勉メテ執務ノ中心ト爲ルニ

於テハ自ヲ處務ノ刷新簡捷ニ資シ一般公衆ノ利便ヲ增進スルコトヲ得ヘシ其ノ他執務ノ能率ヲ增進スル手段方法ハ多々アルヘシト雖今左ニ數箇ヲ擧ク宜ク之カ實現ヲ期スヘシ

一、執務ノ方法ハ上ヨリ下ヘ移シ主トシテ局長又ハ課長等高等官自ヲ執務スルノ方針ヲ採ルコト（局長中心主義）

說明

從來執務ノ方法ハ先ツ判任官之ヲ起案シ高等官ニ差出スノ例ナルモ向後ハ部局ノ長先ツ書類ヲ査閲シ特ニ上司ノ指揮ヲ仰クヘキ場合ヲ除キ處理ノ方針ヲ定メテ部下ノ高等官ニ起案ヲ命シ高等官亦進ンテ自ヲ執筆起案シ之ト共ニ定例アリテ別ニ臨機ノ裁斷ヲ要セサルカ如キ事項ニ就テハ主務ノ高等官限リ之ヲ處理スルコトヲ得シメ以テ事務ノ簡敏ヲ圖ルヘシ

二、官吏ハ執務ニ當リテ常ニ改善ノ工夫ヲ凝ラシ煩瑣ヲ去リテ簡易ニ就カシムルコト（處務簡捷主義）

說明

官吏ハ常ニ執務ノ方法及設備ニ就キテ改善ノ工夫ヲ凝ラシ煩瑣ヲ除キテ事務ノ刷新簡捷ヲ圖ルヘシ之カ爲必要アルトキハ相當奬勵ノ方法ヲ講スルモノトス

三、執務ニ當リ勉メテ機械ノ應用ヲ圖ルコト（處務機械化主義）

說明

執務ニ當リテハ勉メテ簡便ノ方法ヲ採用シ例ヘハ成ルヘク洋紙ニ「ペン」書キスルノ外或ハ「タイプライター」等機械ヲ用ヰテ人力ヲ節約シ以テ事務ノ能率ヲ擧クヘシ

四、處務ニ當リテハ速ニ裁斷シ裁斷シタルモノハ即時決行シ以テ事務ノ停滯ヲ除クコト（速斷即行主義）

說明

執務ニ當リテハ常ニ處理ノ明斷果決ニシ以テ事務ノ進行ヲ圖リ時ニ未決書類ヲ調査シテ事務ノ停滯ナカラシムヘシ

五、勉メテ形式ニ拘泥スルヲ排斥シ專ラ實質ニ就キ裁斷スルコト（實質尊重主

218

国立公文書館
National Archives of Japan

義）

說明

處務ニ當リテハ徒ニ書類ノ形式ニ拘泥スルヿトナク事ノ內容ニ亙リ能ク適法適當ナルヤヲ精査シ實質ニ就キ裁斷スヘシ

六、當ニ執務ニ興趣ヲ感セシメ疲勞除去ノ方法ヲ講スルコト（興趣亢進主義）

說明

凡ソ部局ノ長ハ職員ヲシテ事務ニ對シ常ニ興味ヲ感セシメ單調ヲ避ケ以テ職員ノ心神共ニ倦怠ト疲勞トヲ感セシメサル樣ニ勉ムルト共ニ執務時間中ニ事務ノ性質ニ應シ一定ノ休憩時間ヲ特設スル等疲勞除去ノ方法ヲ講スヘシ

七、部局ノ長ハ絶エス部下ノ能否ヲ注視シ適材ヲ適所ニ配置スルコト（適材適所主義）

說明

事務ニ對スル適應如何ハ人ノ天稟ニ俟ツモノ多シ仍テ各種ノ事務ニ就キ精

密ナル研究ヲ遂ケ其ノ事務ノ要求ニ基キテ相當ノ機能ヲ具有スル者ヲ配置スヘシ之ニ依リ職員自身執務ヨリ來ルノ勞苦ヲ輕減スルト同時ニ事務ノ能率ヲ擧クルコトヲ得ヘシ

八、適材ヲ永ク同一地位ニ置クコト（適材長用主義）

說明

事務ニ適スル材能ハ久シク之ヲ同一事務ニ當ラシムルニ於テ愈〻熟練ヲ加ヘ官廳事務ノ能率ヲ擧ケ得ルヲ以テ適材ハ勉メテ永ク同一地位ニ置クヘシ

九、官吏ハ恪勤精勵タルヘキコト（恪勤精勵主義）

說明

官吏ニシテ如何ニ能力ヲ有スルモ勤務常ナク時ニ公用ヲ缺クカ如キハ最モ戒メサルヘカラサル所ナリ官吏ハ精勵恪勤以テ事ニ當ラサルヘカラス

十、官吏ハ健康ノ保持ニ注意スルコト（健康尊重主義）

說明

事ニ當リテ倦マサルハ固ヨリ強固ナル健康ニ俟タサルヘカラス是ヲ以テ官

国立公文書館
National Archives of Japan

吏ヲ採用スルニ當リ先ツ體格檢査ヲ行ヒ官吏トシテ職務ニ堪ヘサル者又ハ他ニ傳染ノ虞アル疾病ヲ有スル者ハ之ヲ採用セサルコトトシ又官吏ハ執務中常ニ清潔ヲ期シ健康ノ障害ヲ未然ニ防止スルト共ニ個人トシテモ亦自己ノ健康維持ニ勉メ以テ職務ニ勵精スヘシ

十一、官吏ハ虛禮ヲ排シ質實ノ風ニ就クコト（質實剛健主義）

說明

官吏ハ特ニ輕佻浮華ノ弊風ヲ排シ例ヘハ部內ニ於ケル贈答形式的ニスル停車場ノ送迎等ノ如キ虛禮ハ之ヲ避ケ以テ質實剛健ナル美風ノ作興ニ資スヘ

陽甲第一八三號

大正十三年十月十日

内閣書記官長　江木翼

内務次官　湯浅倉平殿

通牒

今般職員録ヲ年二回（七月一日現在ノ分ハ判任官以上並之ニ相當スル公務員ヲ録シ一月一日現在ノ分ハ高等官並同待遇等ヲ録ス）スルコトニ致候處各廳ヨリ印刷局ヘ原稿送付方ノ遲速ハ職員録發行期日ニ甚大ノ關係有之候ニ付右原稿送付方ニ付テハ貴官ヨリ省内並管下各廳ニ通

内閣

牒シ七月一日ノ分ニ付テハ六月中ニ、一月一日ノ分ニ付テハ十二月中ニ一應原稿ヲ作成シ置キ七月一日ノ分ニ付テハ七月早々、一月一日ノ分ニ付テハ御用始ニ於テ編纂現在日ニ至ル異動ヲ訂正シ貴官宛發送セシメ貴官ニ於テ到着スルニ從ヒ順次七月一日ノ分ニ付テハ七月二十日迄ニ、一月一日ノ分ニ付テハ一月十五日迄ニ印刷局ヘ到達スル樣送付ノコトニ處理相成度

職員錄發行期日ノ件

一、七月一日現在職員錄

本錄ハ判任官以上並之ニ相當スル公務員ヲ錄スルコト從來ノ職員錄ノ例ニ依ル其ノ發行豫定速成最極限ハ九月二十日ナリ

本錄ハ原稿蒐集後編纂組版校正印刷及製本ニ六十日ヲ要スルヲ以テ九月二十日ニ發行スル爲ニハ遲クトモ七月二十日迄ニ原稿ノ蒐集ヲ終ルヲ要ス

震災前ノ例ハ記錄ヲ缺クモ本年本錄ノ編纂ノ例ニ依レバ七月一日現在ノモノガ八月二十八日ニ漸ク最終ノ原稿ヲ受取リ其ノ間約六十日ヲ要シタリ斯ノ如ク各當該官廳ニ於ケル原稿ノ作成方ハ甚タ緩漫ナルカ故更ニ之カ速達ヲ期シ上記原稿蒐集豫定期間ヲ二十日ニセン爲ニハ次ノ方法ヲ採ルヲ要スヘシ

各省次官(殖民地ハ內閣書記官長)ヨリ省內並管下各廳ニ通牒シ六月中ニ一應原稿ヲ作成シ置キ七月早々ニ於テ爾後七月一日ニ至ル異動ヲ訂正シ次官宛發送セシメ次官ニ於テ到著ニ隨ヒ順次ニ七月二十日迄ニ印刷局ヘ到達スル樣送付セラルヽコト

附記

七月一日現在トスルトキハ製作時期宛モ暑中ニシテ能率擧ラサルノ憾アリ暑中以外ノ現在ヲ以テスルトキハ更ニ約二週間發行ヲ速カナラシムルヲ得ヘシ

二、一月一日現在職員錄

本錄ハ高等官並同待遇等ヲ錄ス其ノ發行豫定速成最極限ハ二月十五日ナリ

本錄ハ原稿蒐集後編輯組版校正及印刷ニ三十日ヲ要スルヲ以テ二月十五日發行ノ爲ニハ原稿ハ遲クトモ一月十五日迄ニ蒐集スルコトヲ要ス

大正十二年度ニ於テ始メテ高等官同相當者ノミノ分ヲ編輯シタルカ十月一日現在調ニテ十一月二十日ニ於テ漸ク最終ノ原稿ヲ受取リ其間五十日ヲ要シタリコハ震災後材料ヲ燒失シタル向多カリシニモ因ルト雖原稿ノ蒐集期間ヲ十五日ニセン爲ニハ次ノ方法ヲ採ルヲ要スヘシ

各省次官(殖民地ハ內閣書記官長)ヨリ省內並管下各廳ヘ通牒シ十二月中ニ一應原稿ヲ作成シ置キ御用初メニ於テ爾後一月一日ニ至ル異動ヲ訂正シ次官宛發送セシメ次官ニ於テ到著ニ從ヒ順次ニ一月十五日迄ニ印刷局ヘ到達スル樣發送セラルヽコト

附記

年頭ニ於テハ數日ノ休暇日アリ且ツ工員等ノ年始ノ風習上能率ヲ減スルコトハ已ムヲ得サル所ニシテ現在日ヲ一月以外ノ月ニ採ルトキハ之等ノ能率減少ヲ避ケ得ルヲ以テ約十日間近ク發行ヲ速カナラシムルコトヲ得ヘシ

当日欠席

十月一日、今議に於て各省相互に渉て可成次官の手を煩はさる事、但し

本日ノ次官會議ニ於テ左記事項協議相成候

一、政府調査文書ノ公刊ノ件

從來有益ナル政府調査文書民間ニ利用セラレサルノ憾アリ殊ニ民間ノ經濟調査機關ノ聯盟ヨリ右文書ノ目錄公示並ニ一般ニ發賣方ニ關シ[illegible]申出モアリ次會ニ於テ各省ヨリ民間ニ發表シ差支ナキ文書ノ目錄ヲ持寄リ公刊ノ方法等モ考究スルコトト爲ル

二、職員錄年二回發行ノ件

從來年一回ノ職員ヲ年二回發行シ七月一日現在ヲ以テ職員全部ノ、一月一日現在ヲ以テ高等官ノミノ職員錄ヲ調製スルココトトシ其ノ印刷出來リ期日等ニ付印刷局長ヘ協議（内閣ヨリ）スルコトト爲ル

三、行政整理ノ聲ニ因リ各省職員不安ノコトナキカ

各省ニ於テ別ニ不安ノ模様ナキ様ナリ

九月二十五日

内閣

湯浅内務省関下

下條

十一月六日
一三九一號

大正十三年十一月四日

次官

秘書官

宛

秘書官

北海道庁長官死

召集免除件ニ関シ別紙ノ通申ス

当該官長ヨリ南洋庁長官ヲ経由

移牒ヲヤシ

内務省

223

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

兵第六八七號ノ廳

大正十三年十月二十九日

内閣書記官長　江木翼

内務次官　湯浅倉平殿

追條

大正十二年勅令第五百二十八號司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ左記ノ官職ニ在ル者ニ對シ爾今召集免除ノ件乗甲ノ際ハ認可ノ取扱可致コトニ決定相成候

記

山林事務官、山林廳事務官、山林廳、北海道廳ノ營林區署

内閣

又ハ營林區分署ニ勤務スル廳、

公有林野ノ事務ヲ掌管スル北海道廳庶務技手

北海道廳河川監守

大正十三年十二月十六日

内務次官

大臣

秘書官

決裁

参事官

事務官

官房課長

社寺局長

内務省

復興局長

官紀ノ振粛ニ関シ別紙ノ通

内閣法理局ヨリ通牒アリ其ノ未

発事項ノ満渡スルモノアリト認メラル

ニ至リテハ看過スヘカラサルニ付ニ有

之向後一層下僚ヲ戒メ御留意

相成度 依命特ニ右申進候

也

内務省

226

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

閣甲第二八二號

大正十三年十二月十二日

内閣總理大臣子爵加藤高明

内務大臣芳槻禮次郎殿

通牒

官紀ノ振粛ニ付テハ曩ニ本大臣ヨリ訓令ヲ發シ一般ヲ戒飭シタルニ拘ラス近時往々ニシテ未發事項ノ外間ニ漏洩スルモノアリ為ニ他ノ非難攻撃ト為リ或ハ轉シテ政府諸案ノ進行ニ支障ヲ来スノ虞ナキヲ保セス斯クノ如キハ官紀上誠ニ遺憾トスル所ニ有之就テハ向後一層下僚ヲ戒慎督励シテ言議ヲ慎ミ機密ヲ守リ官紀振粛ノ實ヲ擧クル様特ニ御配意相成度

大正十三年十二月十八日

湯浅内務次官

依命通牒

官紀ノ振粛ニ關シ別紙ノ通内閣總理大臣ヨリ通牒アリ其ノ赤裸事項ノ漏洩スルモノアリト認メラルヽニ至リテハ看過スヘカラサルヽ所ニ有之向後一層下僚ヲ戒メ御留意相成度依命特ニ右申進候也

（別紙）

閣甲第二八二號

大正十三年十二月十二日

内閣總理大臣子爵加藤高明

内務大臣若槻禮次郎殿

通牒

官紀ノ振粛ニ付テハ曩ニ本大臣ヨリ訓令ヲ發シ一般ヲ戒飭シタルニ拘ラス近時往々ニシテ赤裸事項ノ外間ニ漏洩スルモノアリ為ニ他ノ非難攻撃ト為リ或ハ轉シテ政府諸案ノ進行ニ支障ヲ來スノ虞ナキヲ保セス斯クノ如キハ官紀上誠ニ遺憾トスル所ニ有之就テハ向後一層下僚ヲ戒慎督勵シテ言議ヲ慎ミ機密ヲ守リ官紀振粛ノ實ヲ擧クル様特ニ御配意相成度

閣甲第九號

大正十四年一月三十一日

内閣書記官長江木翼

文書保管

次官

祝書官

内務大臣若槻禮次郎殿

俟命通牒

明治二十三年一月四日閣議決定省令審査委員設置ノ件之ヲ廢止スルコトニ閣議決定相成候

六二

3

閣第一〇三號

大正十四年五月七日

内閣書記官長　江木翼

内務次官　湯浅倉平殿

通牒

高等官官等俸給令ノ改正ニ伴ヒ高等官官等陞敘年限算定内規中左ノ通決定相成候

一、高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官中高等官二等在職四年以上ニシテ高等官一等ニ陞敘セシムヘキ官中ヨリ「内務省參事官、内務監察官」ヲ削ル

一、同在職五年以上ニシテ高等官一等ニ陞敘セシムヘキ官中「北海道廳内務部長、土木部長、同土木部長」ヲ「北海道廳部長タルモノ」ニ改ム

大正十四年四月廿五日 秘書官

次官

宮

（秘書官宛）湯浅内大臣

（書記官宛）石渡内閣書記官長

本月廿九日靖国神社臨時大祭ニ

当リ左記トシテ

出席ス

（勅任官）

（奏任官）

参列 相成度ニ付御文書通牒

（勅任官）

当日午前十時参著ノコト

服装 大礼服

（勅任官）

（奏任官）

祭式次第 参看

（勅任官報告書報告書庶務課）

大正十四年四月廿七日　秘書官

次官

案

警視総監
東京府知事　宛　秘書官
依命通牒

靖國神社臨時大祭ニ付貴官本月
廿九日午前十時参着相成度
候
追テ祭式次第ハ四月廿四日ノ官報ニ
登載ノ通

大正十四年四月二十六日

内閣書記官長江木翼

内務大臣男爵水野錬太郎殿

依命通牒

靖國神社臨時大祭ニ関シ別紙ノ通陸海軍両大臣ヨリ通牒有之候間貴廳諸員先著ノ儀可然取計相成度

追テ祭式次第ハ四月二十四日ノ官報ニ登載ノ通

右御承知ノ事ニ通達ス

別紙

陸密第一四七〇號　宮房第一四五八號ノ三

靖國神社臨時大祭先著諸員ノ件

大正十四年四月二十四日

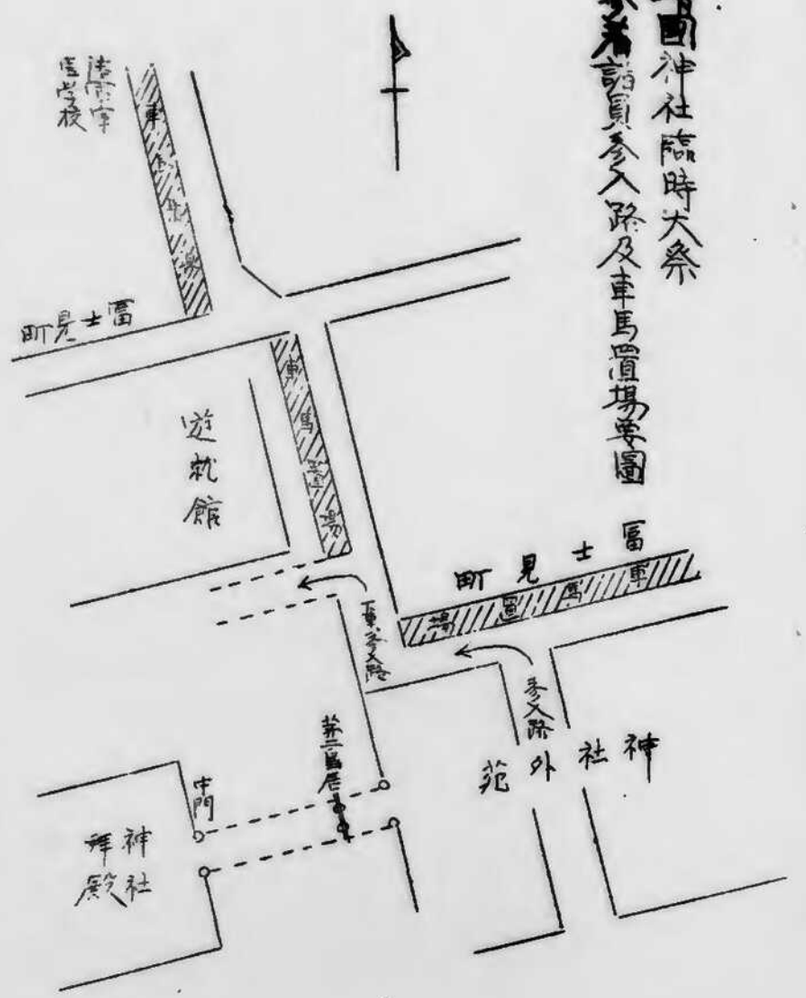
海軍大臣　財部彪

陸軍大臣　宇垣一成

内閣總理大臣子爵加藤高明殿

今般靖國神社臨時大祭ニ関シ別冊祭式次第書ニ依リ大勲位親任官前官禮遇貴族院議長衆議院議長親任官待遇勲一等貴族院副議長衆議院副議長各省内閣書記官長内閣恩給局長内閣法制局長官内閣賞勲局総裁内閣書記官長会計検査院長陸海軍大将任官各總代貴族院議員衆議院議員各省奏任官各總代四月廿九日午前十時同社ハ先着候様夫々御通達相成度候也

大正十四年靖國神社臨時大祭
參拜諸員參入路及車馬置場要圖



裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

大正十四年靖國神社臨時大祭
参拝諸員参入路及車馬置場要圖

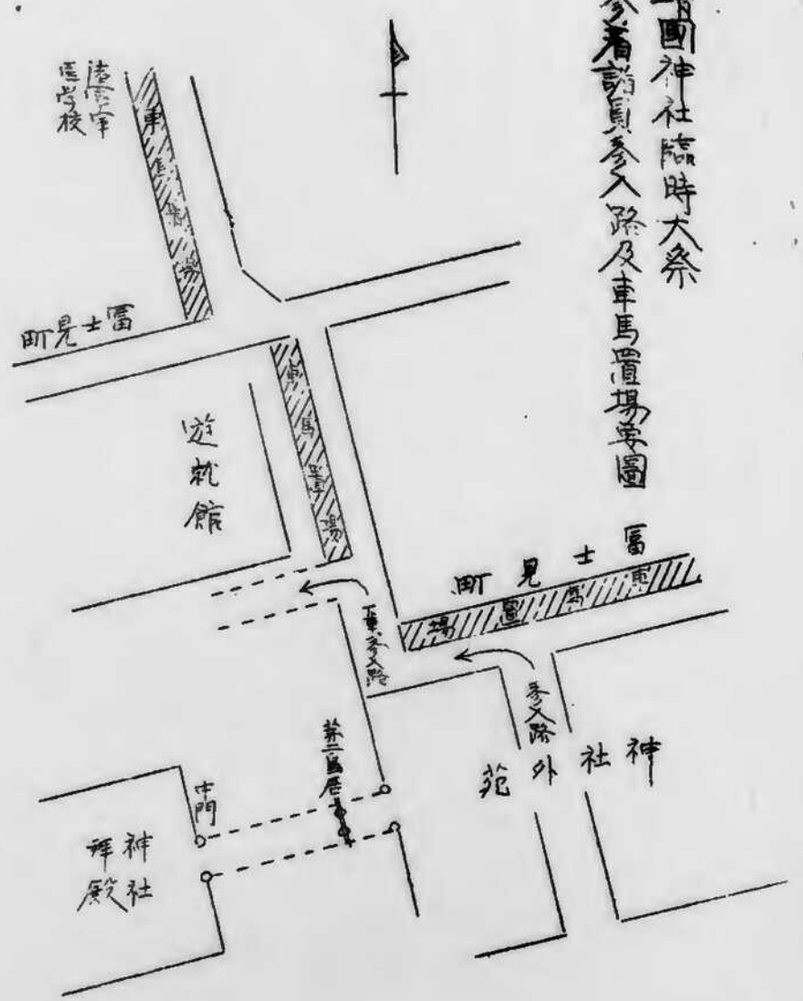
235

裏面白紙

四

大正十四年靖國神社臨時大祭

参着議員参入路及車馬置場要圖



裏面白紙

四

八 正十四年靖國神社臨時大祭

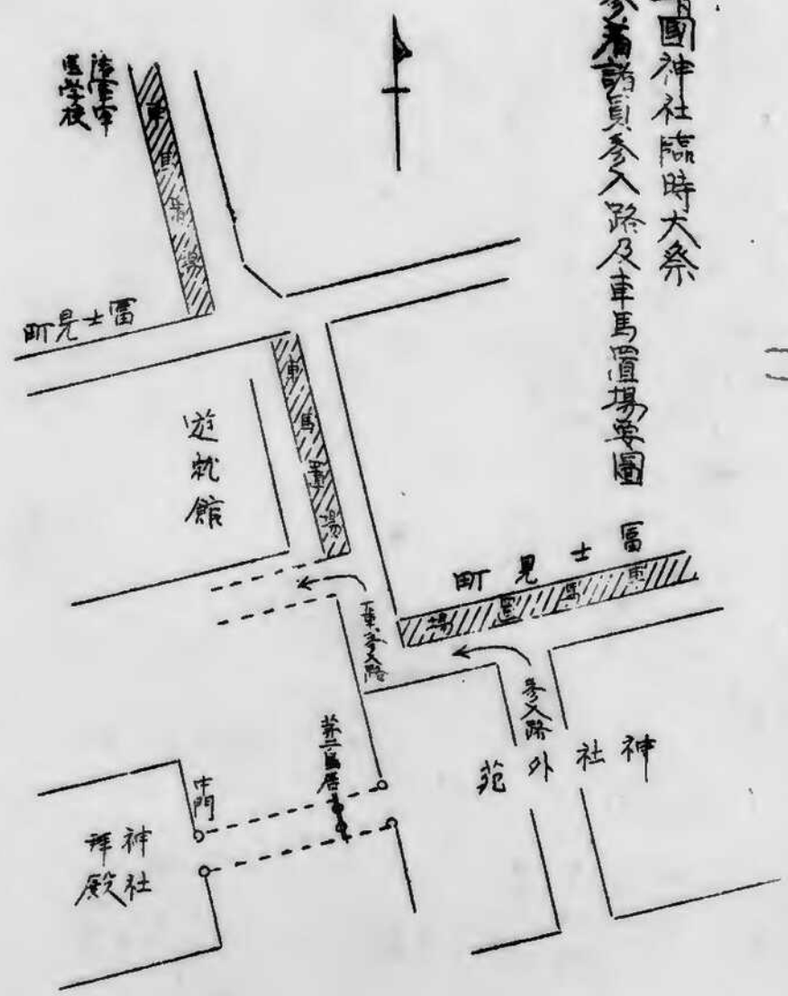
参考諸員参入路及車馬置場案圖

裏面白紙

四

大正十四年靖國神社臨時大祭

参拜諸員参入路及車馬置場要圖



裏面白紙

秘書官

内閣書記官長

庶第一八八號

大正十四年七月十八日

内閣官房總務課長

通牒

左記事項ハ當課ニ於ケル履歴調査上必要ノ處從來往々官報掲載遲延ノ爲事務上ノ支障少カラス候ニ付自今遲滯ナク官報掲載令嗣又ハ官報事項欄ニ登載ノコトニ取計ハレ度

追テ機密ヲ要シ官報ニ登載セサルモノ及委員辭任等消滅ニ關スル件ニ付テハ從前ノ通報告相成度

記

奏任官待遇以上ニシテ履歴ニ關スル事項

報告

○本官奏任兼官判任ノ場合判任ノ異動

○本官判任兼官判任及奏任ノ場合判任ノ異動及俸給

○奏任ヨリ判任ニ、奏任待遇ヨリ判任待遇ニ轉任及俸給

○奏任待遇ノ者ニ兼任セシメタル判任待遇ノ異動

○奏任待遇ノ學校長及其ノ他ノ者ノ俸給及昇級若ハ增給又ハ退職

宣示

○職務、休職、復職又ハ休職滿期

○在外研究員ノ出發及歸朝

奏告

○外國政府ニ招聘セラレ又ハ國際機關ノ職員ト爲リ其ノ期間滿了若ハ定員内ニ復シタル場合

官報

一 廢官若ハ廢職

官報

一 姓名及族籍變更

官報

一 失官又ハ死亡等

其ノ他必要ナル事項

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣閣甲第六三號

大正十五年四月八日

長谷川内閣書記官長

内務省秘書課長殿

文書課長

神社局長

内閣宛送付スベキ文書ニシテ往々其ノ封筒面ニハ内閣宛送付スベキ旨表示ノ適當ナラサル為到着ノ後先又ハ側書表示ノ適當ナラサル為到着ノ後又接受シタル當該文書ノ主任者明ナラサル事ノ件ニ付交渉等ヲ要スル場合往々時間ヲ費スコトアル等事務上ノ支障尠カラス候ニ付テハ已ニ御留意ノ向モ有之候ヘトモ存候ヘ共左記事項一層勵行方御配意相煩度

記

一、内閣總理大臣又ハ内閣書記官長宛公文書（恩給請求書統計報告等直接其ノ主務局ヘ送付スベキモノヲ除ク）ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ニ於テ必ス直接披見スルヲ要スル秘密文書ノ外總テ宮城内内閣官房總務課宛ニ送付スルコト

二、一般ニ封筒面ニ記載シタル宛名人ニ於テ當該公文書ヲ必ス直接披見スルヲ要スルモノノ外「親展」ノ封筒側書ヲ爲ササルコト

三、軍ナル通報ニ屬スル極メテ軽微ナルモノ又ハ主

内閣閣甲第五三號
大正十五年四月八日
長谷川内閣書記官長

内務省秘書課長殿
文書課長
神社局長

従来内閣宛送付スベキ文書ニシテ往々其ノ封筒面
宛先又ハ側書表示ノ適當ナラサル為到着遅延シ又接受シタル當該文書ノ主任者明ナラサル
為其ノ件ニ付交渉等ヲ要スル場合往ニ時間ヲ費スコトアル等事務上ノ支障尠カラス候ニ付テハ已ニ
御留意ノ向モ有之候ヘトモ左記事項一層
勵行方御配意相煩度

記

一、内閣總理大臣又ハ内閣書記官長宛公文書（恩給請求書、統計報告等直接其ノ主務局ヘ送付スベキモノヲ除ク）ハ内閣總理大臣又ハ内閣書記官長ニ於テ必ス直接披見スルヲ要スル秘密文書ノ外總テ宮城内内閣官房總務課宛ニ送付スルコト

二、一般ニ封筒面ニ記載シタル宛名人ニ於テ當該公文書ヲ必ス直接披見スルヲ要スルモノノ外「親展」ノ封筒側書ヲ為ササルコト

三、軍ナル通報ニ属スル極メテ軽微ナルモノノ又ハ主

めくれず

任者ノ常ニ知悉セラレ居ル人事ニ関スル書類等ヲ除クノ外總テ當該公文書ノ交渉主任者ヲ（何局何課誰）欄外其他適當ノ所ニ附記スルコト

国立公文書館
National Archives of Japan

内務大臣官房 15.4.28 文書課
内務省地方局 15.4.30 收發 第8號
行
秘合
11

閣甲第八三號

大正十五年四月二十二日

内閣書記官長塚本清治

内務大臣若槻禮次郎殿

依命通牒

左ノ件閣議決定相成候

國家總動員機關設置準備委員會設置ニ關スル件

國家ニ總動員ノ用意緊要ニシテ缺クヘカラサル、世界大戰中及大戰後ニ於ケル歐米列强ノ施設ニ徵シテ明瞭ナリ而シテ國家總動員計畫ノ根基タルヘキ諸般ノ調査特ニ國家各種人資源及其ノ需給狀態ノ精査ノ如キハ帝國ニ國防上總動員ノ爲ノ必要トスル、ミナラス、帝國ノ現下喫緊ト認ムル産業

地六第長
文書課長

ノ助長並社會政策ノ立案上ニモ忘缺クヘカラサル基礎的要素タリ加之第五十議會ニ於テ貴衆兩院ヨリ國防會議設置ニ關シテ建議シ以テ國家總動員業務管掌機關ノ設立ヲ要望スル所アリタリ

然レトモ國家總動員機關ノ體系、任務等ハ帝國資源ノ情況及總動員業務ノ多岐多端ニシテ其ノ關係スル方面頗ル廣汎ナルニ鑑ミ之カ決定ニハ周到ナル研究ヲ要スル所尠ナカラサルヲ以テ先ツ關係各廳等ヨリ別紙ノ如キ組織ニ依リ内閣ニ國家總動員機關設置準備委員會ヲ設ケ將來設置スヘキ機關ノ組織、任務、業務遂行ノ方案及該機關ト各廳以下トノ連繫等ニ關シ愼重ナル攻究ヲ重ネシメ以テ國家總動員機關ノ設置準備上遺憾ナキヲ期スルコト肝要ナリト認ム

国立公文書館 National Archives of Japan

國家總動員機關設置準備委員會組織

一　委員長　法制局長官
二　委員　内閣統計局長
内閣拓殖局長
内務省
大藏省
陸軍省
海軍省
農林省
商工省
逓信省
鐵道省
局長一名

三　必要ニ應シ關係事項ニ付各廳高等官中ヨリ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

四　幹事
幹事ハ内閣法制局及前記各省高等官中ヨリ各一名宛ヲ命ス

五　書記　若干名
内閣ニ於テ之ヲ命ス

土 十三
一、二九六

大正十五年十一月九日

中官四

秘書官

案

祝意

北海道庁長官

内務大臣

復興局長官

社寺局長官

内務省

道庁官制改正ニ付

道庁

位階令施行細則ノ施行ニ関シ別紙ノ通内閣書記官長ヨリ通牒ノ旨了承

及移牒

245

閣甲第一六二號

大正十五年十一月三日

内閣書記官長坂本清治

内務次官川崎卓吉殿

15.11.5 秘書課

位階令並位階令施行細則ノ施行ニ関スル件

客月二十一日官報號外ヲ以テ公布セラレ候位階令並位階令施行細則本月十日ヨリ施行セラレ候ニ就テハ豫メ左記事項及貴廳関係事項ニ関シ特ニ御留意相成度尚貴管下関係各廳ヘモ此ノ旨篤ト御示達相成候様致度依命此段及通牒候

記

一、位階令並位階令施行細則ノ施行上萬遺漏ナキヲ期スルコト殊ニ位階令施行細則ニ規定シタル諸報告等ノ事務ニ付テハ特ニ遺漏ナキ様注意セラレタキコト

二、位階令第七條ニ該當スル有位者アル場合ニ於テハ其ノ品位ヲ保ツコト能ハザル事情又ハ体面ヲ汚辱スル行爲ヲ詳細ニ具シ遅滞ナク内閣總理大臣ニ報告スルコト但シ有爵者又ハ爵ヲ襲グコトヲ得ベキ相續人ナルトキハ之ヲ宮内大臣ニ報告スルコト

丙第一二九六號

大正十五年十一月十三日

内務大臣　祕書官

通牒

位階令並位階令施行細則ノ施行ニ關シ別紙ノ通リ内閣書記官長ヨリ通牒有之候ニ付及移牒候也

（別紙）

閣甲第一六二號

大正十五年十一月三日

内閣書記官長　塚本清治　印

内務次官　川崎卓吉　殿

位階令並位階令施行細則ノ施行ニ關スル件

客月二十一日官報號外ヲ以テ公布セラレ候位階令並位階令施行細則本月十日ヨリ施行セラレ候ニ就テハ豫メ左記事項及貴廳關係事項ニ關シ特ニ御留意相成度「尚貴管下關係各廳ヘモ此ノ旨篤ト御示達相成候樣致度」依命此段及通牒候

記

一、位階令並位階令施行細則ノ施行上萬遺漏

ナキヲ期スルコト殊ニ位階令施行細則ニ規定シタル諸報告等ノ事務ニ付テハ特ニ遺漏ナキ様注意セラレタキコト

二、位階令第七條ニ該當スル有位者アル場合ニ於テハ其ノ品位ヲ保ツコト能ハザル事情又ハ体面ヲ汚辱スル行為ヲ詳細ニ具シ遅滞ナク内閣總理大臣ニ報告スルコト但シ有爵者又ハ爵ヲ襲グコトヲ得ベキ相續人ナルトキハ之ヲ宮内大臣ニ報告スルコト

以上

極秘

祝書安

大正十五年十月十三日

内務省文書課長殿

法制局

照會

別紙位階令施行細則（閣令）案ニ付不日法制局ニ於テ關係各廳代表者ノ會議ヲ開キ度條條右豫メ御研究被下度此段及照會候

追テ會議ノ日時ハ決定次第御通知申ス可ク候

内務省

229

閣令第　號

位階令施行細則左ノ通定ム

年　月　日

内閣總理大臣

位階令施行細則

第一條　裁判所（軍法會議及領事裁判權ヲ有スル領事官ヲ含ム）有位者ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル宣告又ハ決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

一　禁治産又ハ準禁治産

二　禁治産又ハ準禁治産ノ取消

三　破産

四　破産者ニ對スル復權

第二條　裁判所（軍法會議及領事裁判權ヲ有スル領事官ヲ含ム）被告人タル有位者ヲ勾留シ又ハ之ニ付保釋ヲ許シ若ハ責付ノ決定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ勾留、保釋又ハ責付ヲ取消シタルトキ亦同シ

第三條　裁判所（軍法會議、領事裁判權ヲ有スル領事官及犯罪即決官廳ヲ含ム以下之ニ同シ）有位者ニ對シ禁錮以上ノ刑ノ宣告（即決ノ言渡ヲ含ム）ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡確定セサル場合ニ限リ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ對シ刑ノ言渡確定前大赦又ハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事（檢察官、領事官及犯罪即決官廳ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ遲滯ナク其ノ旨宮内大臣ニ報告スヘシ

第四條　位階令第八條第一項又ハ同條第二項第一號若ハ第二號

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

ノ場合ニ於テハ確定裁判（即決處分ヲ含ム以下之ニ同シ）ヲ爲シタル裁判所ハ遅滯ナク判決（言渡書ヲ含ム）ノ謄本又ハ懲罰記明ノ部分ヲ省略シタル抄本ヲ添ヘ別記書式ニ依リ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第五條　位階令第八條第二項第三號ノ場合ニ於テハ確定懲戒裁判ヲ爲シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ檢察官又ハ懲戒懲罰ノ處分ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ハ遅滯ナク判決ノ謄本又ハ懲戒懲罰事由明細書ヲ添ヘ別記書式ニ準シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第六條　位階令第八條第一項ノ規定ニ該當スル者ヲ除クノ外第四條又ハ前條ノ規定ニ依リ報告シタル有位者ニ對シ失位ニ關スル決定前大赦、刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦又ハ懲戒若ハ懲罰ノ免除アリタルトキハ確定裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事、確定懲戒裁判ヲ爲シタル懲戒裁判所ノ長官若ハ檢察官

内務省

又ハ懲戒懲罰ノ處分ヲ爲シタル官廳若ハ行政廳ハ遅滯ナク其ノ旨内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第七條　市町村長（之ニ準シ戸籍事務ヲ管掌スル者ヲ含ム）有位者ニ付國籍喪失ノ届出ヲ受理シタルトキハ遅滯ナク其ノ旨内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條　有位者位階令第七條乃至第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ其ノ位ヲ失ヒタルトキハ位記ヲ返上スヘシ

前項ノ規定ニ依リ返上スヘキ位記ハ元當該有位者ノ現住所地ヲ管轄スル地方官廳（朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル地方官廳ヲ含ム）之ヲ同收シ宗秩寮總裁ニ送付スヘシ

第九條　位階令第十二條ノ規定ニ依リ位ノ返上ヲ願フル有位者ハ願書ニ返上ノ理由ヲ具シ位ニ位記ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ提出スヘシ

第十條　第四條乃至第七條及前條ノ場合ニ於テ有位者有爵者若ハ爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人又ハ宮内職員ナルトキハ其ノ各條ニ依リ報告又ハ提出スヘキモノハ之ヲ宮内大臣ニ爲スヘシ

第十一條　有位者死亡シタルトキハ家督相續人、戸主又ハ家族ヨリ、氏名ヲ襲更シタルトキハ本人ヨリ速ニ其ノ旨宗秩寮總裁ニ屆出ツヘシ

附　則

敍位條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

内務省

（別記）

書式

本籍
現住所　位勲功爵　氏名
生年月日

一　罪名
一　刑名
一　刑期
一　裁判確定又ハ即決ノ言渡確定ノ年月日
一　犯罪ノ情狀其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
一　位ヲ賜リタル當時ノ職業及年月日
一　記章、褒章又ハ外國ノ勳章若ハ記章ヲ有スル者ナルトキハ其ノ種類

右位階令施行細則ニ依リ及報告候

年　月　日　官職　氏　名印

内閣總理大臣（宮内大臣）宛

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

参照

位階令（勅令案）

第一條　位ハ左ノ十六階トス

正一位
從一位
正二位
從二位
正三位
從三位
正四位
從四位
正五位
從五位
正六位
從六位
正七位
從七位
正八位
從八位

一　位ハ親授二位以下四位以上ハ勅授五位以下ハ奏授トス

第二條　位ハ左ニ掲クル者ヲ敍ス

一　國家ニ勳功アリ又ハ表彰スヘキ效績アル者
二　有爵者及爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人
三　在官者及在職者

第三條　前條ニ掲クル者死亡シタル場合ニ於テハ特旨ヲ以テ其ノ死亡ノ日ニ遡リ位ヲ追賜スルコトアルヘシ

第四條　故人ニシテ勳績顯著ナル者ニハ特旨ヲ以テ位ヲ贈ルコトアルヘシ

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

第五條　有位者ハ其ノ位ニ相當スル禮遇ヲ享ク

第六條　有位者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ享クルヲ得ス

一　禁治産者及準禁治産者

二　破産者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋若ハ責付中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第七條　有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハス又ハ其ノ體面ヲ汚辱スル失行アリタルトキハ情狀ニ依リ其ノ禮遇ヲ停止若ハ禁止シ又ハ位ヲ失ハシム

第八條　有位者死刑、懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ位ヲ失フ

有位者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ位ヲ失ハシム

一　刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ

二　三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ

三　懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

第九條　有位者國籍ヲ喪失シタルトキハ其ノ位ヲ失フ

第十條　有爵者又ハ其ノ家族葬族令又ハ朝鮮貴族令ニ依リ禮遇ヲ停止又ハ禁止セラレタルトキハ其ノ位ニ屬スル禮遇ヲ停止又ハ禁止ス

第十一條　有爵者葬族令又ハ朝鮮貴族令ニ依リ爵ヲ返上シタルトキハ其ノ位ヲ失フ

第十二條　有位者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ位ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

前項ノ請願ハ有爵者ニ在リテハ爵ノ返上ノ請願ト共ニス

ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　本令ハ皇族、王族及公族ニ之ヲ適用セス

附　則

敍位條例ハ之ヲ廢止ス

内務省

国立公文書館
National Archives of Japan

裏面白紙

257

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan